

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学特論 (4 単位)			平成 23 年度	
2. 授業担当教員	中里 克治				
3. 開講学期	春期				
4. 授業科目の区分	必修研究科目群		5	必修・選択の区分	必修
6. 履修可能な専攻	P	課程	M	履修学年 (履修条件)	1 年次以上
7. 授業形態 (通学教育)	講義		履修形態 (通信教育)		SR
8. 講義概要	高度専門職業人としての臨床心理士の役割と社会性について理解する。臨床心理士を目指す場合、学部で心理学と臨床心理学の基礎を学ぶことが望ましい。しかし、本学はその前提を置かないので、臨床心理学の歴史、アセスメント、介入、研究法についての基礎知識についても学ぶ。専門家としての成長、社会的責任、他職種との連携についても学ぶ。				
9. 学習目標	臨床心理士としての意識を確立し、その責任のあり方を自覚し、卒業後の学習に向けての基礎を作ること为目标とする。				
10. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	随時、小レポートを課します。				
11. 教科書 参考書・教材	【教科書】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房 また、随時、プリントを配布する。 【参考文献】 1. 「講座臨床心理学 1 臨床心理学とは何か」2001 下山晴彦・丹野義彦編、東京大学出版会 2. 「臨床心理学原論」2004 大塚義孝編、誠信書房 3. 「Introduction to clinical psychology」1999 M. Wierzbicki, Allyn and Bacon. 4. 援助専門家のための倫理問題ワークブック 2004 コウリー・コウリー・キャラナン 創元社				
12. 成績評価の方法	レポート 50% 出席点、授業参加態度 50% ※通学、通信共通				
13. 受講生へのメッセージ	新しい知識や理論を取り入れることも大切であるが、臨床心理士としての勉強は、文字通り、「生涯教育」であるので、臨床心理士としての勉強の仕方を身につけてほしい。				
14. オフィスアワー	別途通知します。				
15 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】					
1 . テーマ	臨床心理学と心理臨床：オリエンテーション				
【学習の目標】	臨床心理学の位置づけについて学ぶ。				
【学習の内容】	臨床心理学の理念と全体構造。				
2 . テーマ	臨床心理学の実際				
【学習の目標】	臨床心理学の実際を知る。				
【学習の内容】	臨床心理学における実践、研究と専門性について学ぶ。				
3 . テーマ	臨床心理学の歴史				
【学習の目標】	臨床心理学の歴史を学び、将来の方向性を知る。				
【学習の内容】	世界と日本における臨床心理学の歴史を学ぶ。その延長線上にある自分の臨床心理士に向かった成長の方向性について考える。				
4 . テーマ	臨床心理学の基本理論 1				
【学習の目標】	臨床心理学の基本理論について学ぶ。				
【学習の内容】	ナラティブ・アプローチ、社会構成主義、エンパワメントについて学ぶ。				
5 . テーマ	臨床心理学の基本理論 2				
【学習の目標】	臨床心理学の基本理論の発展について学ぶ。				
【学習の内容】	実証性、科学者－実践家モデル、コラボレーションについて学ぶ。				
6 . テーマ	アセスメントの目的と方法				
【学習の目標】	アセスメントの目的と方法について学ぶ。				
【学習の内容】	アセスメントとは何か、ケース・フォーミュレーション、初回面接について学ぶ。				
7 . テーマ	アセスメント・データの収集法				
【学習の目標】	アセスメント・データの収集法の基礎について学ぶ。				
【学習の内容】	面接法、観察法について学ぶ。				

8 . テ ー マ	アセスメント・データの収集法 2
【学習の目標】	さまざまなアセスメント・データの収集法について学ぶ。
【学習の内容】	質問紙法、投影法、知能検査法、神経心理学的検査、脳画像について学ぶ。
9 . テ ー マ	アセスメント・データの分析技法
【学習の目標】	アセスメント・データの分析技法について学ぶ。
【学習の内容】	応用行動分析、機能分析、生態学的アセスメントについて学ぶ。
10 . テ ー マ	異常心理学 1
【学習の目標】	異常心理学とは何かを学習する。
【学習の内容】	異常心理学とは何か、DSM の歴史と将来、精神症状と薬物療法について学ぶ。
11 . テ ー マ	異常心理学 2
【学習の目標】	さまざまな精神障害について学ぶ。
【学習の内容】	不安障害や統合失調症などの精神障害について学ぶ。
12 . テ ー マ	発達臨床心理学 1
【学習の目標】	発達およびそれと関わる臨床的諸問題を学習する。
【学習の内容】	生涯発達、発達障害、胎児期と乳幼児期における発達と臨床的問題について学ぶ。
13 . テ ー マ	発達臨床心理学 2
【学習の目標】	児童期の発達について学習する。
【学習の内容】	児童期における発達と臨床的問題について学ぶ。
14 . テ ー マ	発達臨床心理学 3
【学習の目標】	青年期の発達について学習する。
【学習の内容】	青年期の発達と臨床的問題について学ぶ。
15 . テ ー マ	発達臨床心理学 4
【学習の目標】	成人期以降の発達について学習する。
【学習の内容】	成人発達の各時期における発達と臨床的問題について学ぶ。
16 . テ ー マ	発達障害
【学習の目標】	知的障害をはじめとする発達障害を統合的に理解する。
【学習の内容】	知的障害、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害について理解する。
17 . テ ー マ	虐待、不登校、非行
【学習の目標】	必ずしも、発達の問題ではないが発達途上に発生しがちな様々な問題を理解する。
【学習の内容】	虐待、不登校、非行の原因と対処について学ぶ。
18 . テ ー マ	いじめ、ひきこもり、自殺
【学習の目標】	前講にひきつづき、いじめ、ひきこもり、自殺について学ぶ。
【学習の内容】	いじめ、ひきこもり、自殺の原因と対処について学ぶ。
19 . テ ー マ	介入の理論モデル 1
【学習の目標】	古典的な介入の理論モデルについて学ぶ。
【学習の内容】	精神分析、分析心理学、クライエント中心療法について学ぶ。
20 . テ ー マ	介入の理論モデル 2
【学習の目標】	比較的新しい介入の理論モデルについて学ぶ。
【学習の内容】	家族療法、コミュニティ心理学、ナラティブ・セラピーについて学ぶ。
21 . テ ー マ	個人への介入法 1
【学習の目標】	基本となる個人への介入法について学ぶ。
【学習の内容】	遊戯療法、箱庭療法、夢分析、フォーカシング、自律訓練法について学ぶ。
22 . テ ー マ	個人への介入法 2
【学習の目標】	引き続き、基本となる個人への介入法について学ぶ。
【学習の内容】	自律訓練法、曝露法、催眠療法、認知リハビリテーション、アサーション・トレーニングについて学ぶ。
23 . テ ー マ	集団・社会への介入法
【学習の目標】	介入は個人を対象とするだけではない。集団・社会への介入も大切である。その方法について学ぶ。
【学習の内容】	集団療法から始まり、危機介入、コンサルテーション、心理教育、SST などについて学ぶ。

24. テーマ	コミュニティにおける相談活動
【学習の目標】	地域で行われているさまざまな相談活動について理解する。
【学習の内容】	スクールカウンセリング、特別支援教育、被害者相談、職場のカウンセリング、デイケア、ターミナルケアについて学ぶ。
25. テーマ	臨床心理学的研究
【学習の目標】	臨床心理学における研究について学習する。
【学習の内容】	臨床心理学における研究の意義について考える。また、質的研究や事例研究などのさまざまな研究についても学ぶ。
26. テーマ	社会的専門性：職域
【学習の目標】	臨床心理士が働く職域は多様である。どのような職域があるかを理解する。
【学習の内容】	医療・保健、教育だけでなく、福祉、司法・矯正、産業、家庭など実に様々な領域があることを学ぶ。
27. テーマ	社会的責任1：専門職
【学習の目標】	臨床心理士は専門職としての社会的責任を持つ。その責任とは何かを学習する。
【学習の内容】	説明責任とインフォームド・コンセント、そして、その裏づけとなる生涯（継続）学習についての理解を深める。
28. テーマ	社会的責任2：倫理
【学習の目標】	職業倫理はどの職種にも求められるものである。しかし、臨床心理士はクライアントのプライバシーそのものに触れざるをえず、クライアントに対する人間関係も特殊なものとならざるを得ない。したがって、倫理に対するきちんとした理解が必要である。
【学習の内容】	日本臨床心理士会の倫理規定やAPAの規定などを学ぶ。倫理の適用は実習からすでに始まっている。
29. テーマ	社会的責任3：法規
【学習の目標】	倫理の根拠ともなる法規についての理解も欠かせない。どのような関係法があるかを学ぶ。
【学習の内容】	医療法や地域保健法をはじめ、各職域で必要とさせる関連法規の概要を学ぶ。
30. テーマ	振り返りとまとめ
【学習の目標】	振り返りとまとめを行う。
【学習の内容】	入学時に自分の抱いていた心理臨床についてのイメージと現在のイメージを対比し、今後の課題について考える。

1	科目名(単位数)	臨床心理基礎実習 (4単位)			平成23年度		
2	授業担当教員	田嶋 清一・大澤 靖彦・大島 朗生・新井 雅人					
3	開講学期(通学のみ)	通年					
4	授業科目の区分	必修研究科目群			5	必修・選択の区分	必修
6	履修可能な専攻	P	課程	M	履修学年(履修条件)	1年次以上	
7	授業形態(通学教育)	実習			履修形態(通信教育)	SP	
8	講義概要	臨床心理の専門家として必要なクライアントとの援助のかかわりの基礎を実習する。「援助の枠組み」や「見立てと援助の関係」、「クライアント・家族並びにチームスタッフとの協働」、「倫理問題」などから実際の対応方法を体得する。					
9	学習の目標	本講座の前半は、セラピーに取り組める姿勢や態度の養成を目指して「自分自身と向き合う」学習を中心に行う(田嶋担当10回プラス最終2回)。この自分自身と向き合う授業を受けて、クライアントの行動・認知・感情の特徴について理解を深める(大澤担当6回)。このクライアントの理解を基にして、個人面接のロールプレイを行うとともに実際のケースがどのようなプロセスを辿るのかを理解する(大島、新井担当12回)					
10	学習の課題 アサイメント(宿題) 及びレポート課題等	4人の担当者によって、適宜レポート課題または試験を課す。					
11	教科書・参考書・教材	【教科書】その都度、担当者により資料が配られる。 ただし田嶋担当の授業では、「自分と向き合う心理学 意志心理学入門」田嶋清一著2007 ディスカヴァー刊を使用する。 【参考文献】平木典子「カウンセリング・スキルを学ぶ 個人心理療法と家族療法の統合」2003 金剛出版					
12	評価の基準と方法	担当者全員による合議で評価する。 出席30% レポート30% 実技40% ※通学・通信共通					
13	受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 自分についてのいろいろな発見や気づきがあるので、楽しく参加してください。 今後の仕事に直結する内容を中心として学びますので、積極的な参加を望みます。 					
14	オフィスアワー	別途通知します。					
15	学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】						
	テ	マ	1	自分自身と向き合う		担当 田嶋 清一	
	第1回 自分のパターン化したあり方(八方美人、完全主義) 【学習の目標】自分のパターン化したあり方(八方美人、完全主義)について知る。それらが自分にどう現れているか、他人にどう現れているか振り返る。それらが、どのように心身の疲弊やアパシー(無感動)や、うつ状態に結びついていくかを知る(BDIベックうつ病テストをやる)。そして八方美人、完全主義から距離を取れるようになる。						
	第2回 自分のパターン化したあり方(怒りっぽさ、傷つきやすさ) 【学習の目標】怒りや傷つきのカラクリを知る。サルトルの感情理論を学ぶ(セネカ、アリストテレス、ジェームズ、スペンサー、交流分析、論理療法の中の感情理論を学ぶ)。そして怒りっぽさ、傷つきやすさから距離を取れるようになる。						
	第3回 自分のパターン化したあり方(自己嫌悪、自責) 【学習の目標】自己否定のカラクリを振り返り、自己否定は都合のよさの故に自分が選んで握り締めていることを知る。そして自己否定が根底にあって生じる、根深い他人への憎しみや、効果をあげにくい「向上心」について知る。そして自己否定から距離を取れるようになる。						
	第4回 自分のパターン化したあり方(自分だけは特別だと思ふ、知性化) 【学習の目標】自分だけは特別だという思いは、究極の自己正当化になるが、その反面どんな弊害をもたらしているのかを知る。自分だけは特別だという思いを、どんな経緯で私たちは取り入れたかを知り、どうすればその思いから距離を取れるのかを見ていく。私たちの知的概念的理解に頼る傾向(知性化)について、そのメリット、デメリットを知る。知性化に距離を取ることで、カウンセリングに必要な共感的なコミュニケーションが初めて可能になることを体験的に知る。						
	第5回 「精神療法面接のコツ」について その1 【学習の目標】 精神療法における一般的心得を理解する(精神療法を志す人への助言)。 抱えと揺さぶり、治療同盟(二等辺三角形)、治療操作、精神療法、面接、雰囲気 ・精神療法とは患者の自助機能を「妨げない」試みである。 ・揺さぶりとは動きを失った状態に動きを引き起こすこと(揺さぶり操作は本質として侵襲である)。 ・治療者—患者間のその場の雰囲気が転換を触媒するらしい(ノン・バーバルな要素が重要である)。 ・アンビバレンス(多面的視点)を維持発展させる(葛藤の育成)。 【参考文献】 「精神療法面接のコツ」1990 神田橋條治著、岩崎学術出版社						
	第6回 「精神療法面接のコツ」について その2 【学習の目標】 精神療法における一般的心得を理解する(精神療法を志す人への助言)。 洞察、転移と逆転移、パターン、健康像、変化 ・洞察によって得られた新旧両パターンのあいだの水が行き来するようなありようが、新たな健康像である(「こだわり」のパターンは不変のまま、「こだわりを脱する」パターンがつけ加わる)。 ・窮すれば、則ち変じ、変ずれば則ち通ず(窮している自己のありさまに十分に直面しさえすれば、ほどなく、自分の内部に崩壊感を伴った変化が生じし、引き続いて新鮮な連想が突然湧いてくる)。 ・転移と逆転移は、「という目で見てみる」「しばしの間、行動を控えて、事態を再検討してみる」ための概念である。 ・「語られる自殺希求」については、それを直ちに行為に移さず、対話という枠のなかに置いた、患者のその選択を評価すること。 【参考文献】 「精神療法面接のコツ」1990 神田橋條治著、岩崎学術出版社						

第7回「対話精神療法の初心者への手引き」から 【学習の目標】 「対処行動」の視点、イメージのやりとり、見立てを伝える 作業計画の提示、ストーリーの世界を作る、揺さぶる キーワードの究明 共感が生じるように 「アクティングアウト」の意味 治療操作など 【参考文献】 「初心者への手引き」1997 神田橋條治著 花クリニック神田橋研究会		
第8回 エンカウンターグループの体験 【学習の目標】 自分の中の様々なパターン化したあり方がある程度知った上で、実際にエンカウンターグループを体験する。エンカウンターグループを体験することによって、さらに深く自分の中の様々なパターン化したあり方を知ることになる。そして、カウンセリングに必要な自分のあり方とは何かを学ぶ。		
第9・10回 まとめ 【学習の目標】 ここまで気づいた自分のあり方について、院生各自がまとめて前に立って発表する。それに対してフロアから行われるフィードバックを通して、自分のあり方を振り返る。		
テーマ 2	クライアントの行動・認知・感情の特徴	担当 大澤 靖彦
第11～16回 【学習の目標】 症例を通して、クライアントの行動・認知・感情の特徴について理解する 【学習の内容】 ①事例と DSM を照合する ②クライアントになりきるにはどのようなポイントを押さえればよいか ③問題を誘発している要因、維持している要因は何か ④条件づけられた反応／イラショナル・ビリーフと考えられるものは何か ⑤問題の構造はどうなっているのか 【教科書】 DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引		
テーマ 3	ロールプレイを通して、クライアントとの基本的なかわり方を学ぶ	担当 新井 雅人
第17回 かかわり技法を学ぶ（Ⅰ） 【学習の目標】 教材としてマイクロカウンセリングを用い、クライアントとの基本的なかわり方を学ぶ。適切な視線、しぐさ、声のトーンなどを、ロールプレイを通して学ぶ。		
第18回 かかわり技法を学ぶ（Ⅱ） 【学習の目標】 前回の発展として、クライアントの話の聴き方を学ぶ。クライアントが話を続けることへのはげまし、言い替え、要約、質問のしかた等について、ロールプレイを通して学ぶ。また、マイクロカウンセリングに基づいた面接の5段階について学ぶ。		
第19回 積極技法を学ぶ（Ⅲ） 【学習の目標】 “かかわり技法”を土台に、カウンセラーからの働きかけの基礎を学ぶ。話の焦点の当て方、リフレーミングといったマイクロカウンセリングの積極技法について、ロールプレイを通して理解を深める。		
第20回 大学附属相談室での実習に向けて 【学習の目標】 インテーク面接、面接記録の書き方、陪席についてなど、大学附属臨床心理相談室で実習をおこなう準備をする。		
テーマ 4	リラクゼーション技法	担当 新井 雅人
第21回 リラクゼーション技法を学ぶ（Ⅰ） 【学習の目標】 心理臨床におけるリラクゼーションの考え方を学ぶ。また“ジェイコブソンのリラクゼーション（簡略版）”を体験した上で、相互に実習をおこなう。		
第22回 リラクゼーション技法を学ぶ（Ⅱ） 【学習の目標】 面接場面におけるリラクゼーションの導入について学ぶ。自律訓練法、イメージなど周辺の内容にも触れる。		
テーマ 5	面接のロールプレイから学ぶ	担当 大島 朗生
第23～27回 面接のロールプレイから学ぶ 【学習の目標】：意図を持ったかかわりについて体験的に学ぶ。心理臨床のプロセスで生じていることを理解する。 【学習の内容】 臨床面接のロールプレイをビデオ撮りし、ビデオを再生しながら面接プロセスで何が生じているのかをディスカッションする。振り返り時には「対人関係プロセス想起法」という手法を用いる。これは、適宜ビデオを止めて、援助者が具体的な援助スキルをどのような意図で用い、それを受けた被援助者はどのような体験をしたのかを互いに想起し確認しながら検証するという方法である。面接プロセスで、具体的にどのようなことが展開しているのかを意識する練習になる。 *学習する上での留意点：授業外で事例論文を丁寧に読み込んでほしい。事例論文を丁寧に読み解く能力とは、実際の面接能力とパラレルな関係にあると考えるからである。		
第28回 ケースレポートの書き方 【学習の目標】 ケースレポートを書く意味について十分に理解する。		
まとめ	自分自身と向き合う	担当 田嶋 清一
第29・30回	授業全体を踏まえてあらためて自分と向き合うとはどういうことなのかについてふりかえる	

1	科目名(単位数)	心理学研究法特論 (2単位)	平成23年度
2	授業担当教員	太田 信夫	
3	授業科目の区分	選択研究科目群	4 必修・選択の区分 選択
5	履修可能な専攻	P 課程 M	6 履修学年(履修条件) 1年次以上
7	授業形態(通学教育)	講義等	履修形態(通信教育) R
8	講義概要	心理学の研究法について、要因計画法を核とした心理学的実証法を体系的に学び、代表的な論文の研究論理の例を参照しながら、議論を展開する。	
9	学習の目標	心を見つめる科学としての実証的研究法を学習し、各自の研究課題に適用して考えることができる。	
10	学習の課題 アサイメント(宿題) 及びレポート課題等	(レポート) 2,3の論文について、研究法の観点から論じる。その論文については、授業の中で指定する。	
11	教科書・参考書・教材	【教科書】高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法』有斐閣	
12	評価の基準と方法	レポート、討論への参加度(通信教育はレポート100%) 100~90:A, 89~80:B+, 79~70:B, 69~60:C, 59~:F	
13	受講生へのメッセージ	心理学の研究の難しさを味わってほしい。	
14	オフィスアワー	授業終了後1時間程度	
15	学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1	テーマ	心理学における実証とは、何か。	
		【学習の内容】実証の重要性、因果と説明、実証のロジックなどについて学ぶ。	
2	テーマ	心理学における実証の手続き	
		【学習の内容】変数とその手続き、手続きの妥当性と信頼性などについて学ぶ。	
3~6	テーマ	実験的研究 1~4	
		【学習の内容】具体的に論文を読みながら、方法論について検討する。	
7	テーマ	独立変数の操作	
		【学習の内容】独立変数の種類、純化と多重操作、手続きの標準化、妥当性などについて学ぶ。	
8	テーマ	従属変数の測定	
		【学習の内容】従属変数の種類、測定の信頼性と妥当性、さまざまな手続きと選択などについて学ぶ。	
9	テーマ	剰余変数の統制	
		【学習の内容】統制の原理、個体差変数の統制、個体内変動の統制、直接的な統制などについて学ぶ。	
10	テーマ	さまざまな実験法	
		【学習の内容】実験室実験、質問紙実験、現場実験と自然実験、準実験、単一事例実験などについて学ぶ。	
11	テーマ	研究の実施	
		【学習の内容】実証的研究のイメージ、研究のアイデア、研究の立案と実施などについて学ぶ。	
12	テーマ	結果の解釈	
		【学習の内容】結果の解釈の一般化、後続研究の重要性などについて学ぶ。	
13	テーマ	統計的分析	
		【学習の内容】記述統計、推測統計と統計的検定などについて学ぶ。	
14	テーマ	研究報告	
		【学習の内容】研究報告の大切さ、研究発表、研究論文などについて学ぶ。	
15	テーマ	まとめ	
		【学習の内容】各自の研究について、心理学研究法の観点からまとめ、考察する。	

1	科目名(単位数)	教育心理学特論 (2単位)			平成23年度		
2	授業担当教員	太田 信夫					
3	授業科目の区分	選択研究科目群			4	必修・選択の区分	選択
5	履修可能な専攻	P	課程	M	6	履修学年(履修条件)	1年次以上
7	授業形態(通学教育)	講義等			履修形態(通信教育)		R
8	講義概要	教育心理学の基礎と応用について概観し、最近の教育心理学的問題を取り上げ、考察、分析を行う。					
9	学習の目標	教育心理学の基礎知識を学習すると共に、各領域の研究動向を知り、いくつかの論文を読む。					
10	学習の課題 アサイメント(宿題) 及びレポート課題等	授業で取り上げた研究論文について、コメントしたものをまとめ、レポートにする。					
11	教科書・参考書・教材	【教科書】日本教育心理学会編『教育心理学ハンドブック』					
12	評価の基準と方法	レポート、討論への参加度(通信教育はレポート100%) 100~90:A, 89~80:B+, 79~70:B, 69~60:C, 59~ :F					
13	受講生へのメッセージ	自分の視点より、何事にも興味を持ち学習してほしい。					
14	オフィスアワー	授業終了後1時間程度					
15	学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】						
1	テーマ	教育心理学とは、どんな学問か。					
		【学習の内容】教育心理学の理念、目的、及びその歴史について学ぶ。					
2	テーマ	教育心理学が社会に果たす役割とは、何か。					
		【学習の内容】研究論文・著作物による貢献、教員養成に果たす役割、現職教員にとってもつ意味、教育現場との協働などについて学ぶ。					
3	テーマ	教育心理学の研究法					
		【学習の内容】研究の計画・実施・展開、実験的研究と相関的研究、事例研究とフィールド研究などについて学ぶ。					
4	テーマ	教育心理学の学び方、進め方					
		【学習の内容】学び方の基本姿勢、情報収集術などについて学ぶ。					
5	テーマ	最近の研究動向 — 概観					
		【学習の内容】発達、性格、社会、教授・学習、測定・評価、臨床、障害などの領域について、最近の研究を概観する。					
6~8	テーマ	最近の研究 1~3、発達					
		【学習の内容】『教育心理学研究』に掲載されている論文の中から、発達関係のものを取り上げ、講読をする。					
9~11	テーマ	最近の研究 4~6、臨床					
		【学習の内容】『教育心理学研究』に掲載されている論文の中から、臨床関係のものを取り上げ、講読をする。					
12~14	テーマ	最近の研究 7~9、学習					
		【学習の内容】『教育心理学研究』に掲載されている論文の中から、学習関係のものを取り上げ、講読をする。					
15	テーマ	まとめ					
		【学習の内容】教育心理学の目的、方法、内容についてまとめる。					

1	科目名 (単位数)	社会心理学特論 (2 単位)	平成 23 年度
2	授 業 担 当 教 員	石川 清子	
3	開講学期(通学のみ)	春期	
4	授 業 科 目 の 区 分	選択研究科目群	5 必修・選択の区分 選択
6	履 修 可 能 な 専 攻	P 課程 M	履修学年 (履修条件) 1 年次以上
7	授業形態(通学教育)	講義, 討論	履修形態 (通信教育) R
8	講 義 概 要	「社会的存在としての人間」の諸側面を心理学的観点から考察することを目的とし、個々人の行動レベルの問題、対人関係や対人行動、集団の行動、不特定多数の人々の間に発生する行動現象、コミュニケーションの問題などについて理解を深め考察する。	
9	学 習 の 目 標	次の事項を理解する。 ① 社会心理学における各領域の基本事項 ② 社会心理学の基本概念 (自己, 社会的認知, 態度, 対人魅力, 対人コミュニケーション, 社会的影響, 援助行動・攻撃行動, 集団過程, パーソナリティと役割, 環境, 世論と投票行動) ③ 社会心理学における最近の研究・問題・情報	
10	学 習 の 課 題 アサイメント(宿題) 及びレポート課題等	1. 報告レジュメ (小論文形式) の提出 2. 研究論文検索(最低 1 つ, コピーして添付する)	
11	教科書・参考書・教材	【教科書】 白樫三四郎編著「社会心理学への招待」ミネルヴァ書房 2001 年 【参考文献】 原田純治編著「社会心理学：対人行動の理解」ブレーン出版 2001 年 池上知子「グラフィック社会心理学」サイエンス社, 2004 年 川俣甲子夫, 渡辺席子「社会心理学：臨床心理学との接点」八千代出版, 2004 年	
12	評価の基準と方法	(評価基準) 報告レジュメ(10 課題) 100% (評価点) A: 100~90 B+: 89~80 B: 79~70 C: 69~60 F: 59 点以下 ※通学・通信共通	
13	受講生へのメッセージ	* 臨床心理士という専門家としての視野を広げるためにも, 近年の社会問題を心理学的見地より把握していることは重要です。したがって, 各課題に対し文献検索作業を徹底してください。 * 通信生は特に疑問が生じたときには, 大学に来校するかその他の手続きによって, 教授より指示を仰いでください (E-mail による質問等を受けつけます。kiishika@ed.tokyo-fukushi.ac.jp)。 * 批評・討論の力を養うためにも, 積極的に文献研究を行ってください。 * 各課題で添付する研究論文のコピーは, 返却いたしませんのでご承知ください。	
14	オフィスアワー	追って連絡いたします。	
15	学習の展開及び内容【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】		
1 .	テ ー マ	社会心理学とは何か	
		【学習の目標】社会心理学の定義, 歴史, 研究方法について学ぶ。 【学習の内容】社会心理学が学問として確立した背景を理解し, その為の研究方法論の傾向についてまとめる。 【キーワード】社会的行動, タルド, リンゲルマン実験, 観察, 調査, 実験, 研究上の倫理的問題 【学習の課題】 社会心理学的な事象に対する理解を深めるとともに, これを実証するための実験的方法の在り方, 及び今後の課題について考える。 【参考文献】 原田純治編著「社会心理学：対人行動の理解」ブレーン出版 2001 年。 池上知子「グラフィック社会心理学」サイエンス社, 2004 年。 川俣甲子夫「社会心理学：臨床心理学との接点」八千代出版, 2004 年。 【学習する上での留意点】 報告レジュメは小論文形式で 2 ページ(手書きは認めません)にまとめる。各講義のテーマにおいて, 主要な理論の中から 1 つ興味のある理論についてまとめ, その理論に関連する研究論文をまとめ, 全体の考察を臨床心理士の立場より論述する。また課題の題目は各自のテーマに従って最も適当な題を付け, 引用文献は少なくとも 3 つ, そのうち 1 つは研究論文であること。	
2 .	テ ー マ	自己とは何か	
		【学習の目標】社会心理学における自己とは何かについて学ぶ。 【学習の内容】なぜ自己が社会的なのか, 自己概念・自己評価はどのように形成されるか, 自己の機能についてまとめる。 【キーワード】社会的自己, 自尊感情, 自己効力感, 自己高揚, 自己宣伝 【学習の課題】社会的存在としての自己について考える。 【参考文献】 菅原健介「人はなぜ恥ずかしがるのか：羞恥と自己イメージの社会心理学」サイエンス社, 1998 年。 斎藤 勇「対人社会心理学重要研究集〈6〉人間関係の中の自己」誠心書房, 1998 年。 【学習する上での留意点】課題 1 に同様とする。	

3 . テーマ	社会的認知
<p>【学習の目標】 周囲の人間、集団、及びそこで生起している事象について、これを推測し、判断する心理的メカニズムを学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 対人認知における印象形成に関する研究の流れ、社会的推論における帰属理論の基本構造をまとめる。</p> <p>【キーワード】 印象形成、対人記憶、スキーマ理論、帰属理論、推論のエラー、ハロー効果、ヒューリスティック</p> <p>【学習の課題】 人間は他者や集団をどのように理解しているかについて考える。</p> <p>【参考文献】 唐沢穰他「社会的認知の心理学：社会を描く心の働き」ナカニシヤ出版、2001年。 上瀬由美子「ステレオタイプの社会心理学：偏見の解消に向けて」サイエンス社、2002年。 【学習する上での留意点】 課題1に同様とする。</p>	
4 . テーマ	態度
<p>【学習の目標】 態度とは何か、態度はどのように測定するのか、態度はどのように変容するのかについて学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 態度の定義、態度の測定、説得的コミュニケーション、態度の変容の諸理論についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 サーストンの等現間隔法、リッカート法、行動観察法、精緻化見込みモデル、フェスティンガーの認知的不協和理論</p> <p>【学習の課題】 態度の形成、成分、機能とその変容の諸理論について考え、人間理解を深める。</p> <p>【参考文献】 Festinger, L. (1957) A theory of cognitive dissonance, Row:Peterson. (末永俊朗監訳 (1965)「認知的不協和の理論」誠信書房) Heider, F. (1958) The psychology of interpersonal relations, John Wiley. (大橋正夫訳 (1978)「対人関係の心理学」誠信書房) Sherif, M. & Hovland, C.I. (1961) Social judgment, New Haven, Yale Univ. Press. (柿崎雄一監訳 (1977)「社会的判断の法則」ミネルヴァ書房) 【学習する上での留意点】 課題1に同様とする。</p>	
5 . テーマ	対人魅力
<p>【学習の目標】 人間は他者にどのような魅力を感じ、また、他者からどのような影響を受けているかについて学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 好意形成の規定要因、好意形成の原理、愛情の特質についてまとめる。 態度の類似性と好意形成、個人的資質の望ましさと好意形成、他者からの評価と好意形成、空間的近接・接触の頻度と好意形成</p> <p>【キーワード】 ケリーの相互依存性理論、ハイダーのバランス理論、社会的交換理論</p> <p>【学習の課題】 対人魅力を好意と愛情とに分けた上、特に好意形成の要因と原理について考える。</p> <p>【参考文献】 Heider, F. (1958) The psychology of interpersonal relations, John Wiley. (大橋正夫訳 (1978)「対人関係の心理学」誠信書房) Kelly, H.H. (1967) Attribution theory in social psychology. In D. Levine(Ed.), Nebraska symposium on motivation. Vol.15. University of Nebraska Press. Pp.192-238. 【学習する上での留意点】 課題1に同様とする。</p>	
6 . テーマ	対人コミュニケーション
<p>【学習の目標】 新たな情報伝達手段であるパソコン通信を視野に入れながら、旧来の対人コミュニケーションの諸特徴について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 対人コミュニケーションの構造、対人コミュニケーションのチャンネル、対人コミュニケーションのメディアについてまとめる。</p> <p>【キーワード】 A・B・Xモデル、非言語的コミュニケーション、ダブルバインド理論、親密性平衡モデル、親密性覚醒モデル</p> <p>【学習の課題】 日常生活における他者とのコミュニケーションの特徴とその在り方、将来の展望について考える。</p> <p>【参考文献】 Baran & Davis (2003) Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future, Wadsworth. Patterson, M. L. (1981) An arousal model of interpersonal intimacy. Psychological Review, 83, 235-245. 【学習する上での留意点】 課題1に同様とする。</p>	
7 . テーマ	社会的影響 (1)
<p>【学習の目標】 社会的影響の諸側面のうち、同調、服従、社会的影響としての説得、他者存在の効果等を取り上げ、その現象について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 社会的影響とは何か、同調、服従、社会的影響としての説得についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 シェリフの社会規範形成実験、アッシュの同調実験、</p> <p>【学習の課題】 社会的に影響し合う諸現象について考え、そのメカニズムを理解する。</p> <p>【参考文献】 Hogg, M.A. (1992) The social psychology of group cohesiveness: From attraction to social identity. London: Harvester Wheatsheaf. (廣田君美、藤澤等監訳「集団擬集性の社会心理学」北大路書房) 斉藤勇編 (1987)「対人社会心理学重要研究集 I : 社会的勢力と集団組織の心理」誠信書房。 【学習する上での留意点】 課題1に同様とする。</p>	

8 . テーマ	社会的影響（２）
<p>【学習の目標】社会的影響の諸側面のうち、同調、服従、社会的影響としての説得、他者存在の効果等を取り上げ、その現象について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】他者存在の効果、影響の原理についてまとめる。</p> <p>【キーワード】社会的促進、社会的手抜き、傍観者効果、社会的勢力、情動的・規範的・準拠情報の影響、社会的インパクト理論</p> <p>【学習の課題】社会的影響（１）に同様。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Hogg, M.A. (1992) The social psychology of group cohesiveness: From attraction to social identity. London: Harvester Wheatsheaf. (廣田君美, 藤澤等監訳「集団擬集性の社会心理学」北大路書房)</p> <p>斉藤勇編 (1987) 「対人社会心理学重要研究集Ⅰ：社会的勢力と集団組織の心理」誠信書房.</p> <p>【学習する上での留意点】課題１に同様とする。</p>	
9 . テーマ	まとめ（１）
<p>【学習の目標】前半の講義内容から、臨床心理学・社会心理学的視野より近年の社会問題に関して学ぶ。</p> <p>【学習の内容】各自の問題意識に従って、討論していく。</p> <p>【学習の課題】近年の社会問題に関する、先行研究から自己の見解を確認する。</p> <p>【学習する上での留意点】各自の問題意識に従ってテーマは自由に設定し、文献により分析・考察しておく。</p>	
10 . テーマ	援助行動と攻撃行動
<p>【学習の目標】人間の社会的行動のうち、援助行動、ソーシャル・サポート、対人的葛藤、攻撃行動を取り上げ、その特徴のほか、共通点、相違点について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】援助行動の研究、ソーシャル・サポートの研究、対人葛藤、攻撃行動についてまとめる。</p> <p>【キーワード】責任の分散、匿名性、対人関係と健康、社会的ネットワーク、道具的サポート、社会情緒的サポート、親密な関係の両面性、内的ワーキングモデル、欲求不満攻撃仮説、攻撃動因、攻撃行動の学習</p> <p>【学習の課題】特に援助行動のメカニズムを理解するとともに、援助行動の在り方について考える。</p> <p>【参考文献】</p> <p>大淵憲一 (2000) 「攻撃と暴力：なぜ人は傷つけるのか」丸善ライブラリー, No324.</p> <p>浦光博 (1992) 「支えあう人と人：ソーシャル・サポートの社会心理学」サイエンス社.</p> <p>【学習する上での留意点】課題１に同様とする。</p>	
11 . テーマ	集団過程
<p>【学習の目標】集団やチーム、組織の形成・成長・発達の過程、変革等の特徴を理解するとともに、リーダーと成員の心理的な特徴について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】集団の形成、集団の成長と発達、効果的な集団活動とリーダーの行動、課題のタイプと集団過程についてまとめる。</p> <p>【キーワード】集団形成の三つの条件、集団年齢、青年期・中年期・老年期集団、集団のダイナミクス、リーダー、リーダーシップ、PM理論、変革的リーダーシップ、マダラスの課題循環モデル</p> <p>【学習の課題】効果的な集団運営を図るほか、変化する社会環境に集団やチーム等を円滑に適応させる方策について考える。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Hogg, M.A. (1992) The social psychology of group cohesiveness: From attraction to social identity. London: Harvester Wheatsheaf. (廣田君美, 藤澤等監訳「集団擬集性の社会心理学」北大路書房)</p> <p>斉藤勇編 (1987) 「対人社会心理学重要研究集Ⅰ：社会的勢力と集団組織の心理」誠信書房.</p> <p>【学習する上での留意点】課題１に同様とする。</p>	
12 . テーマ	パーソナリティと役割
<p>【学習の目標】パーソナリティと役割との関連を理解するため、人間と社会的状況との相互作用、状況による行動変化のパターン等に関する諸研究について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】社会的学習理論とローカス・オブ・コントロール、役割理論と自己モニタリング、パーソナリティ研究の危機、社会心理学的研究とパーソナリティ研究の統合についてまとめる。</p> <p>【キーワード】内的統制型、外的統制型、社会的報酬理論、役割理論の研究、象徴的相互作用論、一貫性論争（人間－状況論争）、能動的なパーソナリティ・モデル</p> <p>【学習の課題】社会心理学におけるパーソナリティ論とその研究の意義について考える。</p> <p>【参考文献】</p> <p>バンデューラ, A 原野広太郎 (監訳) 1979 社会的学習理論：人間理解と教育の基礎 金子書房 (Bandura, S. 1977 Social learning theory. Morristown, N.J.: General Learning Press.)</p> <p>レビン, K. 相良守次・小川隆 (訳) 1957 パーソナリティの力学説 岩波書店 (Lewin, K. 1935 A dynamic theory of personality: Selected papers. New York: McGraw-Hill.)</p> <p>クラエ, B. 堀毛一也 (編訳) 1996 社会的状況とパーソナリティ 北王路書房 (Krahe, B. 1992 Personality and social psychology: Towards a synthesis. London: Sage.)</p> <p>【学習する上での留意点】課題１に同様とする。</p>	

13. テーマ	環境
<p>【学習の目標】 様々な物理的社会環境のうち、人間の社会的行動、人間の社会的相互作用に影響を及ぼしている側面を取り出し、それら環境と社会的行動との関連について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】社会的空間行動、環境ストレス、都市環境、居住環境についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 テリトリアリティ、マークの機能、ホームコート・アドヴァンテッジ、集団生態学、クラウドディング、騒音、ファミリー・ストレンレンジャー、集合住宅</p> <p>【学習の課題】物理的社会環境が人間の社会的行動に及ぼしている影響をどのように改善すべきかについて考える。</p> <p>【参考文献】 マーサー、C. 永田良昭（訳）1978「環境心理学序説」新曜社 ソマー、R. 亀山貞登（訳）1972 人間の空間 鹿島出版 (Sommer, R. 1969 Personal space: The behavioral basis of design. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall, Inc.)</p> <p>【学習する上での留意点】課題1に同様とする。</p>	
14. テーマ	文化とはなにか
<p>【学習の目標】 近年の多文化社会は、異質な集合体である人々を共存させる事ができるのか、この現象をどのように分析し解明すべきか学ぶ。</p> <p>【学習の内容】文化とはなにか異文化とはなにか。文化の分類、文化の多様性、文化の接触についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 クラックホーンのモデル・ホフステッドの次元論・リーダーシップ・非言語的コミュニケーション・異文化適応、ソーシャル・スキル訓練</p> <p>【学習の課題】世論と投票行動に関する研究から何を学ぶべきかについて考える。</p> <p>【参考文献】 ホフステッド、G. 岩井の利己・卑猥八郎訳（1995）「多文化世界」有斐閣 (Hofstede, G. 1991 Cultures and organizations: Software and the mind. UK: McGraw-Hill International.) Kluckhohn, F. R. & Fred, L. S. 1976 Variations in value orientations. Evanston, IL: Greenwood.</p> <p>【学習する上での留意点】課題1に同様とする。</p>	
15. テーマ	まとめ（2）
<p>【学習の目標】後半の講義内容から、臨床心理学・社会心理学的視野より近年の社会問題に関して学ぶ。</p> <p>【学習の内容】各自の問題意識に従って、討論していく。</p> <p>【学習の課題】近年の社会問題に関する、先行研究から自己の見解を確認する。</p> <p>【学習する上での留意点】各自の問題意識に従ってテーマは自由に設定し、文献により分析・考察しておく。</p>	

1	科目名(単位数)	社会病理学特論 (2単位)			平成23年度	
2	授業担当教員	花村 誠一				
3	開講学期(通学のみ)	春期				
4	授業科目の区分	選択研究科目群		5	必修・選択の区分	選択
6	履修可能な専攻	P・S	課程	M	履修学年(履修条件)	1年次以上
7	授業形態(通学教育)	講義およびディスカッション			履修形態(通信教育)	R
8	講義概要	臨床心理士(および他の援助専門職)にとって、社会病理学という問題領域は、すぐれてアクチュアルな意義をもつ。「こころのケア」は個人に先立つ社会への眼差しを欠いては、決して豊かな拡がりを獲得できない。21世紀の日本を舞台に、「マクロ社会の病理」「ミクロ社会の病理」を具体的にとりあげていく。ミシェル・フーコーの生-権力論を手懸りに、全体のトーンを調律すべくもくろんでいる。構築主義(社会構成主義)という最新の話題にもふれつつ、可能な限りコンテンポラリーな実質を与える。				
9	学習の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会病理学の歴史的発展について、おおまかな見取り図を描くことができる。 2. フーコー派言説分析の手法を習得し、事例の分析に使用することができる。 3. 高齢化と少子化、それらへの対策について、具体的に論述することができる。 4. 情報化社会の「病理現象」を列挙し、具体的に説明することができる。 5. 過密と過疎の社会病理について、それぞれの生活障害を記述することができる。 6. 家族の病理と集団の病理について、両者を関連させながら論述することができる。 7. 犯罪と非行をめぐる諸原因論を、現代の日本の状況に適用することができる。 				
10	学習の課題 アサイメント(宿題) 及びレポート課題等	<p>レポート課題 現代日本の社会病理について、独自の方法意識のもと、マクロまたはミクロの視点から論述しなさい。なお、後者の視点から論述する場合には、ある問題に絞って、自説を展開してもかまわない。</p> <p>論文作成上の留意点 内容にふさわしい題名(サブタイトルを付してもよい)をつけること。ワープロを使用して、フォント10.5、1ページ36行40字、総計4-5ページでまとめること。序論から始め、いくつかの章立て、結論で終わるように構成すること。</p>				
11	教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 星野周弘著『社会病理学概論』学文社、1999年 C.ウィリッグ(上淵寿ほか訳)『心理学のための質的研究法入門-創造的な探求に向けて』培風館、2003</p> <p>【参考文献】 社会病理学講座第1巻、松下武志ほか編『社会病理学の基礎理論』学文社、2004年 社会病理学講座第2巻、井上真理子ほか編『欲望社会-マクロ社会の病理』学文社、2004年 社会病理学講座第3巻、高原正興ほか編『病める関係性-ミクロ社会の病理』学文社、2004年 社会病理学講座第4巻、畠中宗一ほか編『社会病理学と臨床社会学-臨床と社会学的研究のブリッジング』学文社、2004年 夏刈康男著『タルドとデュルケム-社会学者へのパルクール』学文社、2008年 ガブリエル・タルド著(池田祥英ほか訳)『模倣の法則』河出書房新社、2007年 ジャネット・L・ジャクソンほか著(田村雅幸監訳)『犯罪者プロファイリング-犯罪行動が明かす犯人像の断片』北大路書房、2000年 ジョルジュ・カンギレム著(滝沢武久訳)『正常と病理』法政大学出版局、1987年 エミール・デュルケム著(内藤莞爾訳)『デュルケム法社会学論集』恒星社厚生閣、1990年 エミール・デュルケム著(宮島喬訳)『社会学的方法の規準』岩波文庫、1895年 ミシェル・フーコー著(中村雄二郎訳)『知の考古学』河出書房新社、1981年 ミシェル・フーコー編(岸田秀訳)『ピエール・リヴィエールの犯罪-狂気と理性』河出書房新社、1986年 ミシェル・フーコー著(渡辺守章訳)『性の歴史1 知への意志』新潮社、1986年 イアン・ハッキング著(石原英樹ほか訳)『偶然を飼いなす-統計学と第二次科学革命』木鐸社、1990年 G.キング、R.O.コヘイン、S.ヴァーバ著(馬淵勝監訳)『社会科学のリサーチ-デザイナー-定性的研究における科学的推論』けいそう書房、2004年 切池信夫著『摂食障害-食べない、食べられない、食べたら止まらない』医学書院、2000年 中河伸俊ほか編『社会構築主義のスペクトラム-パースペクティブの現在と可能性』ナカニシヤ出版、2001年 西垣通著『情報学的転回-IT社会のゆくえ』春秋社、東京、2005年 西山詮著『精神分裂病者の責任能力-精神科医と法曹との対話』新興医学出版、東京、1996年</p>				

		<p>重田園江著『フーコーの穴—統計学と統治の現在』木鐸社、2003年 大淵憲一著『犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか』培風館、東京、2006年 「夫（恋人）からの暴力」調査研究会著『ドメスティック・バイオレンス〔新版〕』有斐閣、2002年 酒井隆史著『自由論—現代性の系譜学』青土社、東京、2001年 佐藤郁也著『暴走族のエスノグラフィー』新曜社、東京、1984年 上野千鶴子編『構築主義とは何か』けいそう書房、2001年 中村伸俊ほか編『社会構築主義のスペクトラム』ナカニシヤ出版、2001年 臨床精神医学臨時増刊『高齢少子化時代の精神保健・医療』国際医書出版、1998年 Schelley Tremain ed. : Foucault and the Government of Disability ,the University of Michigan Press,2005 Kendall, G. and Wickham, G. : Using Foucault's Methods. Sage, London, 1999.</p>									
12	評価の基準と方法	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>(通学教育)</td> <td>(通信教育)</td> </tr> <tr> <td>授業での質疑や議論への参加</td> <td>50%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>課題レポートでの達成レベル</td> <td>50%</td> <td>100%</td> </tr> </table>		(通学教育)	(通信教育)	授業での質疑や議論への参加	50%		課題レポートでの達成レベル	50%	100%
	(通学教育)	(通信教育)									
授業での質疑や議論への参加	50%										
課題レポートでの達成レベル	50%	100%									
13	受講生へのメッセージ	<p>ポストモダンと評される現代社会では、「社会病理」の基準を定めることが困難である。それかあらぬか、社会病理学はかつての活況を失い、「臨床社会学」へと止揚されつつある。しかし、この場合の「臨床」がどういうことを意味しているのか、必ずしも明確とは言えない。教科書として掲げた星野の著書は、コンパクトかつロジカルに社会病理学の全貌を伝えるのに成功している。参考書として掲げた講座1－4巻を併読すれば、この学問の今日的位相をうかがいしることができる。</p> <p>マクロとミクロを包括しうる研究法として、フーコー派言説分析をとりあげる。社会病理学を現代的に実行するために、教員自身の問題関心から導入したものである。これは言説心理学や会話分析と異なり、経験科学への応用はまだ実験段階にある。フーコーはフランスの哲学者だが、今日、アメリカのさまざまな領域で、彼をめぐって活発な議論が展開している。わけても、社会学における構築主義は、主要な養分を彼の仕事から得ているはずで、一瞥しておく価値があるだろう。</p> <p>教員は精神科医として精神病理学を学んだ者であり、本科目の開講には私的な感慨を禁じえない。というのも、教員の恩師である故宮本忠雄教授がこの領域に格別の関心をよせていたからである。ドイツ・ロマン派のノヴァーリスをひくまでもなく、「病」はけっして否定的にだけとらえられてはならない。つまり、生の過程と裏合わせに同一であるような受容すべき病という考えに立つこともできる。はたして社会病理についてもこういうかまえをとることは可能だろうか、教員と一緒に考えてみてほしい。</p>									
14	オフィスアワー	別途通知します。									

15 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1～3. パート1：社会病理学の系譜	
1. テーマ	社会病理学とはなにか
<p>【学習の目標】 社会病理学という学問領域について、その黎明期から現代に至るまでの歴史的発展をたどってみる。</p> <p>【学習の内容】 1) 「社会病理」とはなにか、その定義についてみてみると、時代とともに変化していることがわかる。 2) 社会病理学はフランスで起こったが、発展したのは20世紀前半のアメリカにおいてである。 3) 古典的社会病理学は、社会有機体説的なアプローチを特徴とし、多分にアナロジーにたよっていたといえる。 4) 結局のところ、社会病理とは感受概念 (sensitizing concept) である、と考えることができる。</p> <p>【キーワード】 社会病理、感受概念、社会病理学、応用社会学、社会問題、社会問題の社会学、コント (Comte, A.)、スペンサー (Spencer, H.)、リリエンフェルト (Lilienfeld, P.v.)、デュルケム (Durkheim, E.)</p> <p>【学習の課題】 1) 社会病理を測定するにはどのようなやりかたがあるか、例をあげてみよう。 2) 社会病理学に独自の分析方法があるか、改めて考えてみると答えに窮する。 3) 社会問題の基本類型を思いつくまま列挙してみよう。 4) この学問が今日、低迷を余儀なくされているのはなぜだろうか。 5)</p> <p>【参考文献】社会病理学講座、第1巻、松木武志ほか編『社会病理学の基礎理論』、学文社、2004年</p> <p>【学習する上での留意点】社会有機体説を例に、社会科学におけるアナロジーの有用性とその罣について考えてみよう。</p>	
2. テーマ	デュルケム社会学再考
<p>【学習の目標】 フランスの社会学者デュルケムは、「社会病理学」と銘打つことは一度もなかったが、その実質を先取りしていたのみならず、この学問のその後の展開にも多大な影響をあたえた人物である。ここでは、現代的な視点から「デュルケム社会学」について再考してみる。</p> <p>【学習の内容】 1) デュルケムは社会学を実証科学であると同時に道徳に関する科学として成立させようとした。 2) 「規範」(norme) という概念によって、道徳を正常性と通低させることが可能になっている。 3) 規範概念は一方では統計学との関連で、他方では医学・生理学との関連で導入されている。 4) 要するに、デュルケムが成し遂げたことは統計学と生理学の社会学における統合である。 5)</p> <p>【キーワード】 個人レベルの犯罪と自殺、社会全体の犯罪率と自殺率、統計的規則性、大数の法則、平均概念、分散 (dispersion)、ケトレ (Quetelet, L. A. J.)、ポアソン (Poisson, S. D.)、レクシス (Lexis, W.)、ベルナール (Bernard, C.)</p> <p>【学習の課題】 1) デュルケムの学問観をマックス・ウェーバーのそれと対比してみると、どのような特徴がみられるか。 2) カンギレムの医学哲学を参照しながら、正常と異常について深く考えてみよう。 3) デュルケムの社会学のなかに「福祉国家」を可能にする思考の型やスタイルを見定めてみる。 4) さらに、現代社会のさまざまな変動を考えるための参照点として役立てよう。</p> <p>【参考文献】 重田園江『フーコーの穴—統計学と統治の現在』、木鐸社、2003年 エミール・デュルケム (伊藤莞爾訳)『デュルケム法社会学論集』、恒星社厚生閣、1990年 エミール・デュルケム (宮島 喬訳)『社会学的方法の基準』、岩波文庫 イアン・ハッキング (石原英樹ほか訳)『偶然を飼いならす—統計学と第二次科学革命』、木鐸社、1990年 ジョルジュ・カンギレム (滝沢武久訳)『正常と病理』、法政大学出版局、1987年</p> <p>【学習する上での留意点】レクシスの分散とゴルトン—ピアソンの相関・回帰は、現代の数理統計学の基本的手法となっている。</p>	

3. テーマ	社会病理研究の諸理論
<p>【学習の目標】社会病理学の主要理論における分析視点はさまざまであるが、総論的にはあはれ、それらについて一通り理解しておくことは、これからディテールに入っていくうえで必要である。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 機能主義的アプローチは、コンセンサス・モデルに立っている。 2) 社会構造論的アプローチには、コンセンサス・モデルに立つものと、コンフリクト・モデルに立つものがある。 3) 相互作用論的アプローチでは、行為者の主観的アプローチが重視される。 4) 葛藤論的アプローチは、社会を構成するさまざまな集団間には、緊張、対立、葛藤が恒常的に存在するという前提に立つ。 <p>【キーワード】</p> <p>デュルケムのアノミー論、マートン (Merton, R. K.) のアノミー論、エリオット (Elliott, M. A.) とメリル (Merrill, F. E.) の社会解体論、オグバーン (Ogburn, W. F.) の文化遅滞論、レマート (Lemert, E. M.) の逸脱行動論、レイベリング理論、第一次的逸脱と第二次的逸脱、疎外論</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アノミーに関するデュルケムとマートンの違いはどのようなところに求められるか。 2) 社会解体だけでなく、集団解体、家族解体、地域解体についても学ぶ。 3) 逸脱行動が「公共的健康」の一要因とされるのは、どのような理由にもとづくのか。 4) レイベリング理論と従来の実証主義的研究との決定的な違いはどこに存するか、考えてみよう。 <p>【参考文献】</p> <p>社会病理学講座第1巻 松下武志ほか編『社会病理学の基礎理論』、学文社、2004年</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>レイベリング理論は、現代社会学におけるホットな話題である「社会問題への構築主義的アプローチ」の前哨でもあった。どのような意味でそういえるのか、パート2の予習として受講者同士で意見を出し合ってみよう。</p>	
4～6. パート2 : フーコーの権力論	
4. テーマ	フーコー派言説分析入門
<p>【学習の目標】</p> <p>今日、心理学における質的研究法の一翼を担うに至った「フーコー派言説分析」(Foucauldian discourse analysis) の要諦について学び、実際に使用してみる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人はいつでも、どこでも、任意に、自由な語りが許されているわけではない。 2) しかるべき時、しかるべき場所、しかるべき様態と適切さにもとづいて語らなければならない。 3) 言説分析では、語る内容以上に語る主体の社会的ポジションが重視される。 4) 一定の言説フィールドを想定し、そこでのレトリックと配置を仔細に観察し、記述していく。 <p>【キーワード】</p> <p>言説 (discourse) : 対象と一連の主体の位置を構成する言表 (statement) のセット、主体の位置 (subject positions)、位置取り (positioning)、対抗言説 (counter-discourse)、知 (knowledge)、権力 (power)、</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 何ごとかが「社会問題としてクレームされる際のマイクロな会話のやりとりを観察してみよう。 2) 集会でのアピールやメディア向けの声明を、パンフレットや記事の形で収集してみる。 3) 新聞・雑誌記事やテレビ・ラジオ番組の内容分析にもとづいて収集することもできる。 4) ある事柄に対する取り上げられ方がどのように変化したかを長期的なタイムスパンで確認してみる。 <p>【参考文献】</p> <p>ミシェル・フーコー (中村雄二郎訳) 『知の考古学』、河出書房新社、1981年 ミシェル・フーコー編 (岸田秀訳) 『ピエール・リヴィエールの犯罪—狂気と理性』、河出書房新社、1986年</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>フーコー派言説分析にもとづく経験的研究が集積されつつあるが、6. でみるように、そのポテンシャルリティは心理学ないし社会学的受容にはけっして回収できない体のものである。</p>	

5. テーマ	管理社会における生一権力
<p>【学習の目標】 フランスの哲学者フーコー (Foucault, M.) による「生一権力」(bio-pouvoir) と「生一政治」(bio-politique) の概念について学習し、現代社会を分析する新たな道具立てを獲得する。</p> <p>【学習の内容】 1) フーコーは、権力の戦略が「古典主義時代」にきわめて重大な転換を遂げたと考えている。 2) それ以前の権力は、臣下を「死なせる権利」にほかならなかったといえる。 3) 新しい権力は「生命に対し積極的に働きかける権力」、すなわち、「生一権力」である。 4) この権力は人口や民族などマクロ問題を重視し、「生命を経営・管理し、増大させ、増殖させ」ようとする。</p> <p>【キーワード】 先験的-経験的二重体 (un doublet empirico-tanscendental) としての「人間」、パノプティコン (一望監視装置)、規律権力、牧人=司祭型権力、臣下=主体化 (assujettissement)、生一権力、福祉国家、当事のテクノロジー、管理社会</p> <p>【学習の課題】 1) グローバリゼーション下、ある種の普遍性をもった人間管理のテクニックが問題になり始めた。 2) フーコーが批判の対象とした時代と社会は過去のものとなりつつある。 3) 時代は変わっても、新たに生まれ続ける「現在」を切り取る道具を残したといえる。 4) 福祉国家後の社会がこれからどこに向かうのか、まだはっきりしていない。</p> <p>【参考文献】 ミシェル・フーコー『性の歴史1 知への意志』、新潮社、1986年 杉田 敦『権力の系譜学—フーコー以後の政治理論に向けて』、岩波書店、1998年</p> <p>【学習する上での留意点】 フーコーは福祉国家に結びつくのとは別のタイプの、新しい統治形態が力もち始めていることに気づき、英米にあらわれる「ネオリベラリズムの覇権」をすでに予知していた。</p>	
6. テーマ	構築主義とどう違うのか
<p>【学習の目標】 構築主義と呼ばれる人文・社会科学上のパラダイムをめぐり、その系譜、展開、意義、限界 (フーコーによる超出) について、学際的な分野にまたがって論述する。ここでの眼目は、フーコーの仕事 (構築主義に対する) の独自性要求である。</p> <p>【学習の内容】 1) constructionism が「構築主義」と訳されるようになった経緯について知る。 2) 「社会的に構築 (構成) される」とはどういうことか、その含意を正しく理解する。 3) 本質主義および客観主義に対立するこの構想のもつアドヴァンテージを把握する。 4) 「存在論的グリマンダリング (OG)」についての批判をどうかわすか、考えてみる。</p> <p>【キーワード】 認知科学における構成主義 (constructivism) との区別、存在論的グリマンダリング (ontological Gerrymandering)、社会問題、クレイム申し立て、スペクター (Spector, M.) とキツセ (Kitsusse, J.L.) のラベリング論、物語性への注目、歴史叙述の出発点</p> <p>【学習の課題】 1) 言説分析と構築主義との遭遇は、生産的であったと見ることもできる。 2) 女性、精神障害者、身体障害者、マイノリティを積極的に取り上げることも重なる。 3) フーコーの理論的営為は、しかし、つねに行為であり実践であったといえる。 4) 彼にとって批判とは、別様の経験回路を創発する行為であったのである。</p> <p>【参考文献】 中河伸俊、土井隆義、北澤 毅編『社会構築主義のスペクトラム』、ナカニシヤ出版、2001年 スペクターとキツセ (村上直之ほか訳)『社会問題の構築—ラベリング理論をこえて』、マルジュ社、1990年 上野千鶴子『構築主義とは何か』、けいそう書房、2001年</p> <p>【学習する上での留意点】 ここでは、フーコーの社会的受容、その端的なあらわれとしての構築主義に向けて、一種のクレイム申し立てが行われていると考えられてもさしつかえない。</p>	

7～9. パート3：マクロ社会の病理	
7. テーマ	高齢化と少子化のゆがみ
<p>【学習の目標】 高齢化、少子化にともない、さまざまな社会病理現象が生じている。それらへの対策を講じるためにも、現状をしっかりと見据えなければならぬ。</p> <p>【学習の内容】 1) 高齢化の主原因は少子化であり、副次的な原因は高齢者の死亡率の低下である。 2) 「喪失」を手がかりに、高齢者の生活障害と生きがいの回復について学ぶ。 3) 労働力不足を解決するには、少子化の解消だけでなく、女性や高齢者の活用が重要である。 4) 少子化にともない、子どもに対する過保護が拡散しつつある。</p> <p>【キーワード】 年少人口、生産年齢人口、高齢人口、従属人口指数、合計特殊出生率、合計結婚出生率、未婚率、「喪失」：身体的、感覚的-認知的、社会的、経済的、個人的-情緒的、親の私化（プライベートイゼーション）</p> <p>【学習の課題】 1) 労働力不足を解決するもう1つの方法は「外国人労働者」の導入である。 2) 外国人労働者の立場や労働条件の劣悪さは、新たな社会病理現象を生み出している。 3) 日本でも、最近、「多文化間精神医学」という学際的な学会が立ち上がっている。 4) 社会の国際化にともなう病理現象を緩和するには、どのような施策が必要だろうか。</p> <p>【参考文献】 臨床精神医学増刊『高齢少子化時代の精神保健・医療』、国際医書出版、1998年</p> <p>【学習する上での留意点】 このテーマはマクロ社会の病理の代表であるが、同時にミクロ社会の病理をさまざまに散開させている当のものでもあることに留意されたい。</p>	
8. テーマ	情報化社会の特質と病理
<p>【学習の目標】 情報化社会の特質自体および情報化にともなう人々の生活の変化は、それぞれに新たな社会病理現象を生み出しているといえる。ここでは、マクロなパースペクティヴからいくつかの問題をとり出してみる。</p> <p>【学習の内容】 1) 情報化社会では、情報や知識の陳腐化が激しいスピードで進行する。 2) 情報量の増大に比例し、人々の情報選択の自由度が大幅に増大する。 3) 情報の多元性、流動性は、価値観、規範、行動様式などの多元化、ファッション化をもたらす。 4) 本能的-実用的欲求から感覚的-情動的欲求への変化が増進する。</p> <p>【キーワード】 情報化、実用的（非選択的）機能、情動的（選択的）機能、情報のスクラップ・アンド・ビルト、マスコミ情報、映像的-視覚的メディア、擬似環境、仮想現実（ヴァーチャル・リアリティ）、情報の管理・統制、受け手の先有傾向（pre-disposition）</p> <p>【学習の課題】 1) 犯罪的、暴力的、性的情報内容の氾濫は、子どもたちにどのような影響を与えるか。 2) マスコミによる擬似環境は、人々に感覚的な思考と理解、感覚的な反応のしかたを植えつける。 3) マスコミ情報への接触量の大きさは、子どもたちにどのような影響を与えるか。 4) 情報化によるプライバシー侵害の恐れに対しては、どのような施策が必要だろうか。</p> <p>【参考文献】 ノルベルト・ボルツ（山本 尤厄訳）『仮象小史—古代からコンピューター時代まで』、法政大学出版局、1999年 ノルベルト・ボルツ（識名章喜訳）『グーテンベルグ銀河系の終焉—新しいコミュニケーションのすがた』、法政大学出版局、1999年</p> <p>【学習する上での留意点】 現代人の「活字ばなれ」について、マクロなパースペクティヴに立って、社会病理学的な考察を展開してみよう。例えば、「映像の前景化と文字の背景化」と定式化した場合、はたしてどれほどの妥当性をもつだろうか。</p>	

9. テーマ	都市化と環境（自然）破壊
<p>【学習の目標】 都市ではさまざまな社会病理現象が見られる。都市化と裏合わせの過疎化の社会病理についても一瞥する。これらを解決するための施策についても思いをこらす。</p> <p>【学習の内容】 1) 都市化（変化率）よりも、都市度（一定の水準）のほうが病理現象とよく相関する。 2) 都市の「匿名性」は、さまざまな社会病理をはぐくむ母胎であるといえる。 3) いわゆる「都会人」の社会的性格について、さまざまな意見を総合してみる。 4) 都市への人口集中がもたらした過疎化も深刻な社会病理をもたらしている。</p> <p>【キーワード】 都市化、都市度、人口の異質性、匿名性、インフォーマルな行動統制力の弱化、所得・地位・階層の分化、地域解体、スラム地区：大気汚染と地球の温暖化、廃棄物問題、水質汚濁、土壌汚染、生態系の破壊、騒音・振動</p> <p>【学習の課題】 1) 都市化の社会病理とからめて、環境（自然）破壊について認識を深めてみる。 2) これは循環的に人間の生活に障害をもたらすもので、早急な対策がせまられる。 3) 新聞やテレビで報道される事例について、具体的に論じてみる。 4) 現代社会学におけるトピック「リスク社会論」からも学ぶことができるだろう。</p> <p>【参考文献】 このテーマについては、教科書として掲げた星野周弘『社会病理学概論』が創意あふれる整序を行っている。</p> <p>【学習する上での留意点】 日本社会精神医学会では、統合失調症と「都市化」との関連がよく問題にされる。統合失調症の軽症化ないし多様化はすでに既成事実に属するが、この問題を論じるとなるとなかなかむずかしい。</p>	
10～12. パート4 : ミクロ社会の病理	
10. テーマ	家族病理その現象形態
<p>【学習の目標】 ミクロ社会の病理の代表として、現代社会における「家族の危機」をとりあげる。親子関係のみならず、夫婦関係のそれにもいくつかの現代的形態がみられる。</p> <p>【学習の内容】 1) 家族病理現象は、家族の構造自体やその変化からも生じる。 2) 家族がもっていた「家族機能」には、本来、どのような事柄が属していたか。 3) 現代では、それらが大幅に減少し、他の機関に委ねられたりしている。 4) 家族の脆弱性は、家族成員の行動の統制を困難にするという問題を生み出す。</p> <p>【キーワード】 核家族化、単親家庭（one person family）、留守家族、老人家族、直系家族（stem family）、拡大家族（extended family）、母子家庭、家族解体、貧困家庭、夫婦間コンフリクト、ドメスティック・ヴァイオレンス（DV）、「配偶者からの暴力及び被害者の保護に関する法律」（2001年）</p> <p>【学習の課題】 1) 離婚数が年々漸増しているが、夫婦間コンフリクトの増加の反映と考えられる。 2) 夫婦間コンフリクトへの対処法として、どのようなことが考えられるか。 3) ドメスティック・ヴァイオレンス生成の背景となる家族の特質をいくつか列挙してみる。 4) 家族はもはや「法の外部」ではなく、「法化対象」へと変貌している。</p> <p>【参考文献】 社会病理学講座第3巻 高橋正典ほか編『病める関係性—ミクロ社会の病理』、学文社2004年</p> <p>【学習する上での留意点】 社会病理学的なものの考え方にはとらわれずに、改めて「自分にとって家族とは何であるのか」と問うてみよう。</p>	

11. テーマ	家族病理の影響と結果
<p>【学習の目標】 家族の病理現象は、その成員にさまざまな逸脱行動をひき起こすことが多い。それらのうちの主なものをとりあげ、また、いくつかの精神疾患にも眼を配る。</p> <p>【学習の内容】 1) 非行少年の家族の特徴について、臨床心理学的に整理してみる。 2) 離婚には当事者を苦悩から解放するという機能もあり、この点が他の病理現象とは異なっている。 3) 家出のいくつかのタイプを家族病理に関連させつつ類別してみる。 4) 心中や近親者殺しは、「死」による家族緊張の解消であり、家族病理のもっとも悲惨な産物である。</p> <p>【キーワード】 子どもの非行化、離婚、自殺、家出と蒸発、心中、近親者殺し・嬰兒殺・不登校、ひきこもり、摂食障害 (eating disorder)、性同一性障害 (gender identity disorder)</p> <p>【学習の課題】 1) 家庭から学校へと眼を転じ、「不登校」という現代日本における重大な社会問題をとりあげる。 2) それとの関連で、いわゆる「ひきこもり」についても議論を展開してみる。 3) 家族療法的配慮が必要とされる「摂食障害」について、社会病理学的に検討してみる。 4) やや話がずれるが、「性同一性障害」をめぐる構築主義者たちの議論を批判してみよう。</p> <p>【参考文献】 社会病理学講座第3巻、高原正興ほか編『病める関係性—ミクロ社会の病理』、学文社、2004年 切池信夫『摂食障害—食べない、食べられない、食べたら止まらない』、医学書院、2000年</p> <p>【学習する上での留意点】 昨今、しきりと家族の命運を危ぶむ向きも多いが、家族こそ「最後に残るもの」という考え方も拡がりつつあるように思われる。</p>	
12. テーマ	非行集団、宗教団体など
<p>【学習の目標】 集団の病理として、「非行集団」と「宗教団体」の2つをとりあげる。犯罪と非行の原因論については、教科書として掲げた星野周弘の『社会病理学概論』の第5章をよく読んで、自習すること。</p> <p>【学習の内容】 1) 非行集団は親-子、教師-生徒のような垂直的な社会作用にではなく、水平的なそれにもとづく。 2) 最大の特徴は、その成員達に共有される支配的な文化に対する反応のしかたである。 3) 支配的な文化への反動形成として、独特な副次文化を発達させる。 4) 日本における典型的な非行集団「暴走族」について、具体的に検討してみる。</p> <p>【キーワード】 非行集団 (delinquent gang)、仲間集団 (peer gang)、サブカルチャー (副次文化)、街頭家族 (street-corner-family)、暴走族、既成宗教、新宗教、カルト、「剥奪」、オウム真理教、超常現象、テレバシー、念力、「回心」、教祖 (カリスマ)</p> <p>【学習の課題】 1) オウム真理教は「信」の宗教ではなく、「術」の宗教であるといわれている。 2) 呪術的宗教は、狂信的行為に走りやすく、戦争すらひき起こしやすいという。 3) 当時のメディア報道資料をひもといて、あの忌まわしい事件について社会病理学的に考察してみる。 4) 宗教における「信者」と「教祖」とではどういう違いがあるのか、みんなで考えてみよう。</p> <p>【参考文献】 資料として、イマーゴ臨時増刊『オウム真理教の深層』、青土社、1995年 別冊宝島229『オウムという悪夢 (同世代が語る「オウム真理教」論)』、宝島社、1995年</p> <p>【学習する上での留意点】 この機会に、日本を代表するエスノグラファー、佐藤郁也氏の『暴走族のエスノグラフィー』の一読を奨める。新宗教についてこれに匹敵する名著があるかどうか、教員自身は残念ながらあげることができない。</p>	

13～15. パート5：臨床社会学への扉	
13. テーマ	現代日本における児童虐待の諸相
<p>【学習の目標】 2000年の「児童虐待の防止等に関する法律」の施行以降、世間の関心の高まりが反映したのか、児童相談所が処理する相談件数は増え続けているようである。社会構築主義者たちの主張も、この点に関してはあながち不当とは言えないかもしれない。</p> <p>【学習の内容】 1) 児童虐待が生じる要因については、実にさまざまなものが考えられるが、可能な限り挙げてみる。 2) 虐待の種類、被虐待児の年齢、虐待者の属性などのデータから、どのようなことがうかがえるか。 3) 社会構築主義者の言うとおり、児童虐待の絶対数は昔と比べてそれほどは変わっていないだろう。 4) しかし、児童虐待の発生メカニズムについては、決して昔と同じではないはずである。</p> <p>【キーワード】 身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト、マルトリートメント、被虐待児の病態：外傷後ストレス障害（PTSD）、愛着障害、非特異的な問題、注意欠陥多動性障害（ADHD）、福祉的対応と司法的対応、通告義務、</p> <p>【学習の課題】 1) 虐待者の動機としてどんなものがあるのか、できるだけ最近のデータにあたって考えてみる。 2) 臨床心理士として、あるいは社会福祉士として、どのような介入がありうるか、いくつかの事例にあたってみる。 3) この問題に関する社会構築主義的アプローチについて、代表的な論文にあたってみる。 4) 背景要因としてバックのいう意味での「リスク社会」を想定し、このテーマについて考えてみる。</p> <p>【参考文献】 上野加代子著『〈児童虐待〉の構築』、世界思想社、2003年 井上真理子著『ファミリー・バイオレンス—子ども虐待発生のメカニズム』、晃洋書房、2005年</p> <p>【学習する上での留意点】 教員自身、精神科医として児童虐待の事例を経験しており、児童相談所をはじめ実に多様な専門職との連携を図ったことがある。臨床社会学という分野に学問的市民権を与えるうえでも、この問題をどのように考えるかが試金石になるといえるだろう。</p>	
14. テーマ	現代日本における自殺者数の増加をどう考えるか
<p>【学習の目標】 自殺は社会問題化や「言説」性があまり強調されない伝統的-不変的な社会病理現象であるが、1998年以降、日本では年間自殺者が3万人を超え続けており、2006年6月には自殺対策基本法が成立した。</p> <p>【学習の内容】 1) デュルケムによる自殺の定義、およびその分類について学習する。 2) デュルケムによれば「自殺は個人の属している社会集団の統合の強さに反比例して増減する」という。 3) その後、「社会集団の統合」という概念は、さまざまな変数に置き換えられていく。 4) それらは都市化・産業化の進展にともなう社会移動の激化を背景にしたものである。</p> <p>【キーワード】 自己本位的自殺(egoistic suicide)、集団本位的自殺(altruistic suicide)、アノミー的自殺(anomic suicide)、宿命的自殺(fatalistic suicide)、日本の自殺統計、第三の自殺多産期（ピーク）、高齢者の自殺、過労自殺、エイジズム</p> <p>【学習の課題】 1) 現代日本の自殺にデュルケムの4類型をあてはめてみよう。 2) 自殺をめぐる日本に独自の社会的-文化的背景について考えてみよう。 3) 自殺者の多くが、うつ病やアルコール乱用などの精神医学的問題をかかえている。 4) 死別・離別・未婚の男性の自殺率が女性に比べて非常に高いのはなぜだろうか。 5) 近年、自殺既遂例に対する「心理学的解剖」がよく話題になるが、どのようなものか一瞥しておこう。</p> <p>【参考文献】 エミール・デュルケム（宮島 喬訳）『自殺論』、中公新書、1985年 社会病理学講座第3巻、高原正興ほか編『病める関係性—マイクロ社会の病理』、学文社、2004年</p> <p>【学習する上での留意点】 援助専門職をめざす院生諸君にとって、もしクライアントに「自殺したい」と打ち明けられたらどうするか、ということは切実な問題であろう。自殺リスクの評価と具体的な介入法については、米国精神医学会の治療ガイドラインなどを参照してほしい。</p>	

15	テーマ	精神医療とフーコーの生・権力論（外部講師による特別授業）
		<p>【学習の目標】</p> <p>心理職にとっても福祉職にとっても、精神医療をマクローミクロリンクの視点から相対化してみることは重要な意義をもつ。なぜなら、その国の文化度を測る尺度として、精神医療こそがもっとも鋭敏なセンサーとして働くからである。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none">1) フーコーは「死なせるか、生きるままにしておく」という「古い法／権利」から説き起こしている。2) ここでは、生は「不作為 (laisser)」の結果として、死は「作為 (faire)」の結果としてもたらされる。3) フーコーによれば、生・権力は「生きさせるか、死の中へ廃棄するという権力」として定義される。4) ここでは、生が「作為 (介入)」の結果として、死が「不作為 (不介入)」の結果として現出する。 <p>【キーワード】</p> <p>生・権力 (バイオ・パワー)、生政治、人口、統治性、新自由主義 (ネオリベラリズム)、セキュリティの装置、リスク管理、「経済人 (ホモ・エコノミクス)」、環境犯罪学、人種主義、ホロコースト、安楽死計画、医療観察法、自立支援法</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none">1) なぜ人びとを「生きさせる」はずのものが人びとを「死の中へ廃棄する」ことになると言えるのだろうか。2) この矛盾を解消するために、フーコーは「人種主義」というメカニズムに注目している。3) 第一次大戦とナチズムの時代、精神病者の大量餓死が生じたという事実を歴史的に検証してみる。4) この極端な事例は、どのようなロジックのもとで、医療観察法と自立支援法以降の日本の精神医療にも投影可能になるか。 <p>【参考文献】</p> <p>市野川容孝：生・権力論再論—餓死という殺害。現代思想35巻11号、78—99、2007年</p> <p>M.フーコー（慎改康之訳）『生政治の誕生』、筑摩書房、2008年</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>本テーマについては、東京大学大学院総合文化研究科の市野川容孝先生をお招きして特別授業を行ってもらおう。先生はドイツで医学史研究の最先端にふれられ、障害者の運動にも関わりながら、フーコー派の代表的論客の一人として活躍中である。</p>

1	科目名 (単位数)	精神医学特論 (2 単位)			平成 23 年度		
2	授 業 担 当 教 員	花村 誠一					
3	授 業 科 目 の 区 分	関連研究選択科目群		4	必 修 ・ 選 択 の 区 分	選 択	
5	履 修 可 能 な 専 攻	S・P	課 程	M	6	履修学年 (履修条件)	1 年次以上
7	授 業 形 態	講義および実技指導			履修形態 (通信教育)		社会福祉学専攻：R(S) 臨床心理学専攻：R
8	講 義 概 要	臨床心理学または社会福祉学を学ぶ者に、手際よく現代精神医学のフロンティアを指し示すための科目である。DSM-IVを通して、医学 (生物)・心理・社会 (bio-psycho-social) の全体的、多面的側面から精神疾患をアセスメントする、厳密かつ正確な実践技法を学ぶ。EBM (evidence based medicine) の時代にふさわしく、受講生が実証的な研究法になじむように、主要な学習項目は計量精神病理学、実験精神病理学から選択する。さらに、一方で精神療法のテクニック、他方で精神医学の分子生物学へと展開し、精神疾患に対する既存のイメージが更新されるようにもくろむ。					
9	学 習 の 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. DSM-IV-TR の操作的診断基準にもとづいて、精神疾患の診断ないしアセスメントを行うことができる。 2. 精神疾患を評価尺度によって客観的に測定し、信頼性と妥当性について統計学的検定ができる。 3. ワーキングメモリや意味ブライミングなど、重要な認知機能の測定装置を厳密かつ正確に使用できる。 4. 言語論的転回以降にあらわれた代表的な精神療法のテクニックについて、その理論的基礎を説明できる。 5. 精神科薬物療法、学習と記憶のメカニズム、精神疾患の遺伝について、その分子的基礎を説明できる。 					
10	学 習 の 課 題 アサイメント (宿題) 及びレポート課題等	<p>各テーマごとに学習の課題を挙げたが、実習に近いものもかなり含まれている。その都度、主要な参考文献を1つあげてあるが、購入はしないまでも、図書館などで読んでほしい。なお、レポート課題については、以下に列挙する2つのうちから、どちらか1つを選択し、期日までに提出する。</p> <p>レポート課題 1 『シュレーバー回想録』(平凡社、1991年；平凡社ライブラリー451、2002年、いずれも絶版)を精読し、DSM-IVによる診断を踏まえ、自らの問題意識にしたがい、その病態について論述しなさい。</p> <p>レポート課題 2 精神疾患の生物学的研究、さらには社会科学の生物学的基礎づけについて、なんらかの具体的データ (必ず出典を明示すること) をとりあげながら、独自の観点に立って論述しなさい。</p> <p>論文作成上の留意点 内容にふさわしい題名 (サブタイトルを付してもよい) をつけること。ワープロを使用し、フォント 10.5、1 ページ 36 行 40 字、総計 4-5 ページでまとめること。序論から始め、いくつかの章立て、結論で終わるように構成すること。</p>					
11	教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 高橋三郎, 大野裕, 染谷俊幸訳『DSM-IV-TR, 精神疾患の分類と診断の手引き』(MINI-D), 医学書院, 2002年 北村俊則著『精神・心理症状学ハンドブック第2版』, 日本評論社, 2002年</p> <p>【参考書】 クッファー/ファースト/レジエ編 (黒木俊秀ほか訳)『DSM-V 研究行動計画』、みすず書房、2008年 武田雅俊ほか著『Advanced Psychiatry 脳と心の精神医学』、金芳堂、2007年 高橋三郎ほか訳『DSM-IV-TR ケーススタディ—鑑別診断のための臨床指針』、医学書院、2004年 高橋三郎ほか訳『DSM-IV-TR ケースブック [治療編]』、医学書院、2006年 アルヴィン E. ハウス著 (上地安昭, 宮野素子訳)『学校で役立つ DSM-IV』, 誠信書房, 2003年 北村俊則著『精神症状測定の理論と実際 (第2版)』, 海鳴社, 1995年 N. C. アンドリアセン著 (武田雅俊, 岡崎祐士訳)『脳から心の地図を読む—精神の病を克服するために』, 新曜社, 2004年 荻原満里子著『ワーキングメモリー—脳のメモ帳』, 新曜社, 2002年 M. シュピッツァー著 (村井俊哉, 山岸洋訳)『脳, 回路網のなかの精神』, 新曜社, 2001年 ステイブン E. ハイマン, エリック J. ネスラー著 (融道男, 澁谷治男訳)『精神医学の分子生物学』, 金剛出版, 1997年 J. D. ナシオ著 (姉齒一彦訳)『ヒステリー, 精神分析の申し子』, 青土社, 1998年 P. ワツラウィック, J. ウィークランド, R. フィッシュ著 (長谷川啓三訳)『変化の原理』, 法政大学出版局, 1992年 シーラ・マクナミー, ケネス J. ガーゲン編 (野口裕二, 野村直樹訳)『ナラティブ・セラピー (社会構成主義の実践)』, 金剛出版, 1997年 木島伸彦ほか: Cloninger の気質と性格の 7 次元モデルおよび日本語版 Temperament and Character Inventory (TCI). 精神科診断学 7 : 379-399, 1996. 佐藤裕史, G. E. Berrios : 操作的診断基準の概念史—精神医学における操作主義, 精神医学 43 : 704-713, 2001 高橋三郎, 大曾根彰訳『SCID-II, DSM-IV II 軸人格障害のための構造化面接』, 医学書院, 2002年</p>					

		<p>G. O. ギャバード著 (権成鉉訳) 『精神力動的精神医学—その臨床実践 [DSM - IV版] ①理論編』, (大野裕 監訳) 『同②臨床編: I 軸障害』, (館 哲朗 監訳) 『同③臨床編: II 軸障害』, 岩崎学術出版, 1997年</p> <p>J. G. ガンダーソン著 (松本雅彦ほか訳) 『境界パーソナリティ障害—その臨床病理と治療』, 岩崎学術出版, 1988年</p> <p>E. フラー・トーリー著 (南光進一郎ほか訳) 『分裂病がわかる本—私たちは何ができるか』, 日本評論社, 1997年</p> <p>I. I. ゴッテスマン (内沼幸雄ほか監訳) 『分裂病の起源』, 日本評論社, 1992年</p> <p>J. レフ, C. ヴォーン著 (三野善史ほか訳) 『分裂病と家族の感情表出』, 金剛出版, 1991年</p> <p>N. C. Andreasen (平安良雄ほか監訳): 新 Bleuler 学説に基づく精神分裂病の単一疾患モデル. 臨床精神薬理 5: 553-575, 2002年</p> <p>クラウス・コンラート著 (山口直彦ほか訳) 『分裂病のはじまり』, 岩崎学術出版社, 1994年</p> <p>ヴォルフガング・ブランケンブルク著 (木村敏ほか訳) 『自明性の喪失—分裂病の現象学』, みすず書房, 1994年</p> <p>ルーク・チョンピ著 (松本雅彦ほか訳) 『感情論理』, 学樹書院, 1994年</p> <p>村崎光邦監修 『統合失調症—最新精神薬理学』, オフィスエム・アイ・ティ, 2003年</p> <p>Andreasen, N. C.: Brave New Brain. Conquering Mental Illness in the Era of the Genome. Oxford University Press, Oxford & New York, 2001</p> <p>Andreasen, N. C.: DSM and the death of phenomenology in America; An example of unintended consequences. Schizophrenia Bulletin 33: 108-112, 2007</p> <p>Kendell, R, Jablensky, A: Distinguishing between the validity and utility of psychiatric diagnoses. Am. J. Psychiat. : 4-12, 2003.</p> <p>Sadler J. Z., Wiggins O. P., Schwarz M. A.: Philosophical Perspectives on Psychiatric Classification. Johns Hopkins University, Baltimore & London, 1994.</p> <p>Sass L. A.: The Paradoxes of Delusion. Wittgenstein, Schreiber, and the Schizophrenic Mind. Cornell University, Ithaca & London, 1994.</p> <p>Servan-schreiber, D., Printz, H., Cohen, J. D.: A network model of catecholamine effects: Gain, signal-to-noise ratio, and behavior. Science 249: 892-895, 1990</p> <p>Watzlawick, P.: The Invented Reality. How Do We Know What We Believe We Know? (Contributions to Constructivism) Norton & Company, 1984.</p> <p>邦訳のない外国語文献についてはそのつど指示し、重要なものは抄訳ないしレジュメを配布する。写真や図表についてはその都度 visual aids を作成し、OHC やパワーポイントでもって映写する。ソフトウェアが開発されている測定装置のうち、許可を得たものについては教材として使用する。</p>									
12	評価の基準と方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(通学教育)</th> <th>(通信教育)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業での質疑や議論への参加</td> <td>50%</td> <td>20% (スクーリング参加の場合)</td> </tr> <tr> <td>課題レポートでの達成レベル</td> <td>50%</td> <td>80% (スクーリング参加なしの場合 100%)</td> </tr> </tbody> </table>		(通学教育)	(通信教育)	授業での質疑や議論への参加	50%	20% (スクーリング参加の場合)	課題レポートでの達成レベル	50%	80% (スクーリング参加なしの場合 100%)
	(通学教育)	(通信教育)									
授業での質疑や議論への参加	50%	20% (スクーリング参加の場合)									
課題レポートでの達成レベル	50%	80% (スクーリング参加なしの場合 100%)									
13	受講生へのメッセージ	<p>DSM-5 のドラフトが 2010 年 2 月にアメリカ精神医学会から発表された。今後、2 回の field trial を経て 2013 年に DSM-5 が完成する予定である。今回の改訂の最大の特徴は、ディメンジョン評価の導入であろう。しかも、このディメンジョン評価は疾患横断的(cross-cutting)に行われる公算が強い。</p> <p>DSM による診断は、精神疾患についてのあらゆる理解と知識の統合を要求する、きわめて要求水準の高い専門レベルの仕事である。人権尊重への配慮がいつそう問われるこれからの福祉社会では、精神保健や心理臨床の専門家にもアカウントビリティ (説明責任) が求められる。</p> <p>このことを踏まえ、各セクションには実証的な研究法に役立つ具体的なテーマを並べたが、4 の精神療法のテクニックはやや異色である。ここでは、教員自身の臨床現場から模範事例を挙げながら、平素にも増して受講生との対話形式の授業を展開するように配慮する。</p> <p>外部講師による特別授業として、国立精神・神経センター精神保健研究所、児童・思春期精神保健部部長、神尾陽子先生による「自閉症スペクトラム障害」、理化学研究所脳科学総合研究センター、分子精神科学研究チーム部長、吉川武男先生による「精神疾患の分子基盤」を予定している。</p> <p>教員は現役の精神科医であり、精神病理学・精神療法を主な研究領域としている。本年度は日本病跡学会 (6 月)、日本精神病理・精神療学会 (10 月)、日本芸術療法学会 (12 月) で発表を行う。受講生の諸君も、こういうメンタルヘルス関係の諸学会に積極的に参加し、おおいに学問的刺激をうけてほしい。</p>									
14	オフィスアワー	別途通知します。									

15 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
セクション1：DSMの操作的診断基準	
1. テーマ	精神医学における操作主義とは
<p>【学習の目標】 米国精神医学会の「精神疾患の分類と診断の手引き」第3版（DSM-III）にとり入れられた新機軸について学ぶ。本科目の眼目は、何といっても DSM-IVの概要を把握することに置かれており、その概念史についても十分な理解をもってほしい。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神疾患の診断が国や学派によって一致しなかったのはなぜか。 2) DSM-IIIはそれをどのように乗り越えようとしたか。 3) これによって精神医学にどのような地殻変動が生じたか。 4) DSM-III以降の精神医学によって失われたものはなにか。 <p>【キーワード】 論理実証主義（ウィーン学団）、操作主義、C. G. ヘンペル、セントルイス・グループ、ファイナー基準、研究用診断基準（RDC）、プレコックス感</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) DSM-IIIの基本方針、「理論に偏らない」（atheoretical）診断手順を体験してみる。 2) 米国の伝統であった力動精神医学と DSM-III以降の新クレペリン主義との違いを知る。 3) ドイツ精神病理学からの批判のポイントについて理解する。 4) 21世紀に米国の精神医学がどのように展開していくか予測してみる。 <p>【参考文献】 佐藤裕史，G. E. Berrios：操作的診断基準の概念史—精神医学における操作主義，精神医学 43(7)：704-713，2001.</p> <p>【学習する上での留意点】 WHOによる国際疾病分類（ICD-10）との互換性、および若干の差異に留意すること。</p>	
2. テーマ	DSM-IV診断システムの概観
<p>【学習の目標】 DSM-IVの使用法に精通し、主要な精神疾患の診断ないしアセスメントの仕方について概要を把握する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) DSM-IVにおける精神疾患および他の状態の基本定義について理解する。 2) 伝統的に神経症（ないしヒステリー）とされた病態は、DSM-IVではどこに配属されているか。 3) 多軸評定の構成に即して、クライアントに関する多面的な情報を効率よく整理する。 4) 病型、重症度・経過の特定用語、暫定診断、特定不能のカテゴリーについて理解する。 <p>【キーワード】 現実検討能力（reality testing）、カテゴリーカルとディメンジョナル、転換性障害、解離性障害、不安障害、身体化障害、外傷後ストレス障害（PTSD）、GAF尺度、プレコックス感、感度、特異性</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) DSM-IVケースブックから精神分裂病（統合失調症）、気分障害、その他の代表的症例を抜き出し、その診断手順を確認してみる。 2) 鑑別診断における「ルールイン」（同定）と「ルールアウト」（除外）の手順に即して、各自でフローチャートを作成してみる。 3) 機能の全体的評定（Global Assessment of Functioning, GAF）尺度にもとづいて、クライアントの精神保健および適応について評価してみる。 <p>【参考文献】 高橋三郎，大野裕，染谷俊幸訳『DSM-IV-TR，精神疾患の分類と診断の手引き』（MINI-D），医学書院，2002年</p> <p>【学習する上での留意点】 ドイツ語圏精神病理学における統合失調症に関する代表的著作（コンラート，ブランケンブルク，チョンピ）の併読をすすめる。西欧精神医学と米国精神医学のあいだには、どうしても知的伝統の相違ゆえの齟齬が生じがちである。</p>	

3. テーマ	学校で役立つ DSM-IV-TR
<p>【学習の目標】 幼児、児童、青年の診断ないしアセスメントに特化して、DSM-IVの使用法を学ぶ。また、精神疾患の早期発見と早期介入というトピックにもふれてもらう。とりわけ、統合失調症のそれについては、いくつかの新しい用語に慣れなければならない。</p> <p>【学習の内容】 1) 発達的特性を重視しながら、DSM-IVの診断カテゴリーの適用がめざされる。 2) 精神保健アセスメントにおけるスクールサイコジストの役割について考える。 3) 精神病（気分障害に属するものを含む）は小児期にはどのような現象形態であられるか。 4) ここでの学習内容は、成人の精神障害における病前行動特性の評価にも役立つ。</p> <p>【キーワード】 行為障害 (CD)、反抗挑戦性障害 (ODD)、注意欠陥／多動性障害 (ADHD)、チック障害、摂食障害、選択性緘黙、性同一性障害、広汎性発達障害 (PDD)、D U P (Duration of Untreated Psychosis)、P E L s (Psychotic Like Experiences)</p> <p>【学習の課題】 1) 不登校事例に即して、可能性のあるすべての病態を列挙してみる。 2) 破壊的行動症状（表面化する問題）、情動の症状（内面化する問題）に分けて病態を整理してみる。 3) 知的能力、学習、コミュニケーション、および認知の問題のアセスメントについて学習する。 4) バロン-コーエンの「心の理論」仮説を理解し、それにもとづく検査手技を実行してみる。</p> <p>【参考文献】 アルヴィン E. ハウス著（上地安昭、宮野素子訳）『学校で役立つ DSM-IV』誠信書房、2003 年 東條吉邦ほか編『発達障害の臨床心理学』、東京大学出版会、2010 年</p> <p>【学習する上での留意点】 13 歳以前に発症した「最早期発症」(very-early-onset) の統合失調症の病像を成人のそれと比較してみよう。統合失調症の 1.5 次予防は、新世紀の精神医学のトピックであり、他の精神疾患についても予防戦略がしきりに論じられつつある。</p>	
セクション 2 : 精神症状をどう測るか	
4. テーマ	症状評価尺度の信頼性と妥当性
<p>【学習の目標】 精神症状の測定方法に関する信頼性と妥当性の統計学的検定について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 1) 精神症状測定信頼性に対して、これまで十分な考察がなされなかったのはなぜか。 2) 同一の被験者に対する評価尺度の得点が 2 名の評定者の間で異なるように働く要因を数えあげる。 3) 評価尺度が測定すべきものをどれだけ正しく測定しているか、その程度を妥当性という。 4) 妥当性の検討には、他の尺度との比較による方法となんらかの外的規準を用いる方法とがある。</p> <p>【キーワード】 評価手技, rating scale と instrument, 被験者分散, 状況分散, 基準分散, 観察分散, 信頼性検定のデザイン, 信頼度の計算方法, 構成上の信頼性, 妥当性の検討</p> <p>【学習の課題】 1) 信頼性検討の研究で用いられる Cohen の κ 係数の計算法をマスターする。 2) κ 係数に及ぼす base rate の影響について理解し、いくつかの場合を想定してみる。 3) 評価尺度の内的整合性の指標となる Cronbach の α 係数について理解する。 4) 外的規準を用いた妥当性の検討について、実現可能と思われる方法を列挙してみる。</p> <p>【参考文献】 北村俊則著『精神症状測定の理論と実際（第 2 版）』、海鳴社、1995 年</p> <p>【学習する上での留意点】 教員が取り組んでいるボン大学基底症状評価尺度 (BSABS) について、信頼性と妥当性を測定する手順を具体的に示したい。経験的・実証的研究に着手しようとしている院生たちにとっては、こういう手本を示すことがなによりも重要であると考えている。</p>	

5. テーマ	よく用いられる症状評価尺度
<p>【学習の目標】 精神科で頻用される代表的な評価尺度の構成を理解し、それらの正しい適用について学ぶ。精神疾患簡易構造化面接法 (M. I. N. I.) のシミュレーション・ビデオを用いて具体的に「構造化面接」を体得してもらう。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) それぞれの評価尺度の項目の名称と定義について十分な理解をもつ。 2) 重症度評価におけるアンカー・ポイントの意義について正しく理解する。 3) 得点の得られなかった項目には欠損値が与えられるが、どのように処理すればよいか。 4) アウトカム・アセスメントが臨床的、経済的、政策的に必要となった理由について述べよ。 <p>【キーワード】 簡易精神症状評価尺度 (BPRS), ハミルトンうつ病評価尺度 (HDS), 陽性症状評価尺度 (SAPS), 陰性症状評価尺度 (SANS), ミニメンタルテスト (MMS), 長谷川式簡易痴呆スケール (HDS)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健常者を対象に2人の評定者によって包括的評価尺度 BPRS を施行してみる。 2) 代表的な痴呆スケールの評価手技に親しみ、自らデータを集めてみる。 3) さまざまな用途に応じたおびただしい数の評価尺度が開発されているが、一通り眺めわたしてみる。 4) 各自、自らの研究計画のなかで使えそうな評価尺度をいくつか選んでみる。 <p>【参考文献】 北村俊則著『精神症状測定の理論と実際 (第2版)』, 海鳴社, 1995年</p> <p>【学習する上での留意点】 ここで学んだ症状評価尺度についての知識は、修士論文のデザインにも寄与するところが大きいだろう。また、ここでの視野を近年ますます重要視されつつあるアウトカム・アセスメントへと拡大してみよう。</p>	
6. テーマ	気質・性格の次元的な分類
<p>【学習の目標】 DSM-IVによるパーソナリティ障害の診断では、いわゆる重複診断が頻繁に生じることになる。ここでは、その代替策として、パーソナリティに関するカテゴリー分類からディメンジョン分類への移行について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カテゴリー分類には、評定者間信頼度が低く、重複診断に傾きやすいという欠点がある。 2) DSM-IVにおける人格障害のクラスター分類は、なおカテゴリー分類に近いものである。 3) 奇妙で風変わりに見えるA群、演劇的・情緒的・移り気に見えるB群、不安と恐怖を特徴とするC群。 4) クローンジャーによる気質の4因子、性格の3因子からなるTCIはディメンジョン分類である。 <p>【キーワード】 TCI (Temperament and Character Inventory), 気質の4因子 (新奇性追求, 損害回避, 報酬依存, 固執), 性格の3因子 (自己志向, 協調, 自己超越)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一組のペアで、SCID-II (DSM-IV, II軸の人格障害のための構造化面接) を施行してみる。 2) 各自TCIの質問票にある全項目にチェックし、結果を自ら集計してみる。 3) クローンジャーによるTCIの概念構成に照らし、自らのパーソナリティを評価してみる。 4) クローンジャーの生物社会学的ディメンジョン・モデルがどれほど大きな意義をもつか考えてみよう。 <p>【参考文献】 木島伸彦ほか: Cloningerの気質と性格の7次元モデルおよび日本語版 Temperament and Character Inventory (TCI). 精神科診断学7: 379-399, 1996. (雑誌)</p> <p>【学習する上での留意点】 血圧の正常と異常を区分点 cut off point で決めるのがカテゴリー分類なとらえ方である。これに対し、連続量としてあつかうのがディメンショナルなとらえ方である。TCIはきわめて鋭敏な測定ツールであり、各自が自分自身で試してみることを奨める。</p>	

セクション3：神経科学的アプローチ	
7. テーマ	ワーキングメモリとは何か
<p>【学習の目標】 ワーキングメモリの働きを脳の神経基盤をもとに理解し、いくつかの検査手技について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 1) 日常生活におけるさまざまな行動場面で、ワーキングメモリはどのように働いているか。 2) バッドリーのワーキングメモリのモデル（視覚・空間的スケッチパッド、音韻ループ）について理解する。 3) 老人におけるワーキングメモリの低下について、これまでどのようなことがわかっているか。 4) 児童におけるワーキングメモリの発達について、これまでどのようなことがわかっているか。</p> <p>【キーワード】 Goldman-Rakic のサルによる実験、前頭前野、情報処理障害、Wisconsin Card Sorting Test (WCST)、リーディングスパンテスト、リスニングスパンテスト</p> <p>【学習の課題】 1) WCST のソフトウェアを使用し、自ら被験者になってディスプレイ上で体験してみる。 2) 受講生同志でペアをつくり、リーディングスパンテストを実行してみる。 3) ワーキングメモリに容量制限があるのはなぜか、ジャストとカーペンターの仮説について理解する。 4) 統合失調症の hypofrontality はワーキングメモリの障害によって説明できるだろうか。</p> <p>【参考文献】 荻坂満里子著『脳のメモ帳、ワーキングメモリ』新曜社、2002年</p> <p>【学習する上での留意点】 統合失調症のほか、注意欠陥／多動性障害 (ADHD) の研究にも使われる Continuous Performance Test のソフトウェアについても、デモンストレーションを行う。</p>	
8. テーマ	意味プライミング効果の計測
<p>【学習の目標】 意味プライミング効果の計測法と、その思考障害研究への応用について学ぶ。統合失調症の研究を例に、実験精神病理学という魅力的な分野に目を開いてほしい。</p> <p>【学習の内容】 1) ゴールトン、アシャッフエンブルク、ユングによる古典的な連想実験の意義について考える。 2) 統合失調症の形式的思考障害、連想の弛緩は臨床的にどのような表現形態をとるか。 3) 単語を読みあげて連想を喚起するやりかたには、どのような方法上の難点があるか。 4) 語彙判定課題による意味促進（プライミング）効果の計測は、コンピュータのディスプレイを介して行う。</p> <p>【キーワード】 連想ネットワーク、語彙判定課題、プライム刺激、ターゲット刺激、促進効果と抑制効果、間接的連想、意味ネットワークの活性化焦点の理論</p> <p>【学習の課題】 1) 語彙判定課題のソフトウェアを使用し、自ら被験者になって意味促進効果を測定してみる。 2) M. シュピッツァーの研究を参照しながら、3) 4) が実際にどう実現されたかフォローしてみる。 3) 統合失調症における連想の障害を研究するにあたり、どのような実験条件を設定したらよいか。 4) 統合失調症における具象化傾向を研究するにあたり、どのような実験条件を設定したらよいか。</p> <p>【参考文献】 M. シュピッツァー著（村井俊哉、山岸洋訳）『脳、回路網のなかの精神』、新曜社、2001年</p> <p>【学習する上での留意点】 形式的思考障害をシグナル／ノイズ比の低下によって説明したコーエンとサーヴァン＝シュライバーの研究についても、その概要を把握してみよう。科学における実験が強靱なロジックによって支えられていることをしっかり学びとってほしい。</p>	

9. テーマ	脳機能イメージングの研究
<p>【学習の目標】 最新の脳機能イメージング研究の成果にもとづいて、人間の脳の動作原理について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現在実用段階にある非侵襲的脳機能検査法にはどんなものがあるか。 2) それぞれの脳イメージング装置は何をどのように画像化しているのか。 3) 各イメージング装置を空間分解能と時間分解能を軸にとる座標平面のなかに位置づけてみる。 4) 脳機能イメージング研究で得られた知識は、脳機能の発達や改善に応用することができるだろうか。 <p>【キーワード】 PET, functional MRI, 脳磁図, 脳電図, 光トポグラフィー, 空間分解能, 時間分解能</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) CD-ROMによって、知覚と認知のイメージングを概観してみる。 2) CD-ROMによって、学習と記憶のイメージングを概観してみる。 3) CD-ROMによって、コミュニケーション機能のイメージングを概観してみる。 4) CD-ROMによって、思考と情動のイメージングを概観してみる。 <p>【参考文献】 川島隆太著『高次機能のブレインイメージング』, 医学書院, 2002年——カラーの図表やムービー（動画）を入れたハイブリッドCD-ROMが添付されている。</p> <p>【学習する上での留意点】 f-MRIは被験者の動きに弱く、子供を対象にする際には工夫が必要である。子供はまた、課題遂行を途中でやめたり、睡ってしまったりする。このことに関して、何かよいアイデアはないだろうか。</p>	
セクション4：精神療法のテクニック	
10. テーマ	ラカン派の精神分析
<p>【学習の目標】 いまや国際精神分析学会（IPA）をしのぐ勢いで急成長を遂げつつあるラカン派精神分析の理論と技法について一瞥しておく。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ラカン派精神分析と米国に流布する自我心理学的なそれとの決定的な違いはどこにあるか。 2) フランス構造主義との浸透によって、フロイトの精神分析はどのような洗練を遂げたか。 3) いわゆる「短時間セッション」が被分析者に及ぼす治療的意義について考えてみよう。 4) ヒステリー、恐怖症、強迫神経症において、無意識の「問い」はどのようなかたちをとるか。 <p>【キーワード】 無意識, 享楽（ジュイサンス）, 対象 a, 幻想, 身体, 無意識の主体, 排除（フォルクリュジョン）, シニフィアン, 想像界／象徴界／現実界</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員自身の臨床現場から、妄想性人格障害の患者に対する夢分析の過程が提示される。 2) 新宮一成の「いざなみの夢系列」に関する構造主義的アプローチを参照してみる。 3) この事例は精神分析が適応可能なリミットであると思われるが、いくつか教訓をひき出してみよう。 4) ラカン派精神分析による神経症と精神病との構造論的峻別から何を学びとるか。 <p>参考文献】 J. D. ナシオ著（姉齒一彦訳）『ヒステリー, 精神分析の申し子』, 青土社, 1998年</p> <p>【学習する上での留意点】 精神保健や心理臨床の専門職にゆきわたっているのは、力動的心理学ないし自我心理学であろう。その意味では、ここで展開される事柄の多くが新鮮に映るかもしれない。</p>	

1 1. テーマ	家族療法ないしコミュニケーション理論
<p>【学習の目標】 前世紀のなかば米国に登場した家族療法の基礎理論、二重拘束仮説について今日的視点から再考してみる。</p> <p>【学習の内容】 1) ベイトソンらのオリジナルの二重拘束仮説について、その理論的手立てのポイントをおさえる。 2) この仮説が統合失調症の理論としては生き残れなかったのはなぜか、考えてみよう。 3) ワツラウィックやスルズキによって普遍的病因論へと拡大されていく経緯をたどり直す。 4) 人間のコミュニケーションについて、言語学という語用論を踏まえて概念化してみる。</p> <p>【キーワード】 二重拘束（ダブルバインド）、学習 I、II、III、ロジカルタイプ、逆理（パラドックス）、問題の形成と解釈、リフレーミング、世代間境界の区切り</p> <p>【学習の課題】 1) 教員自身の臨床現場から、摂食障害（過食）の患者に対する家族療法および夫婦療法が提示される。 2) この事例における「世代間境界の混乱」を読みとり、それに対する治療技法を考えてみる。 3) MRI の影響を受けたミラノ派の治療技法についても、この事例を通して考えてみる。 4) コミュニケーション理論とラカン派精神分析との遭遇について、議論を展開してみよう。</p> <p>【参考文献】 P. ワツラウィック, J. ウィークランド, R. フィッシュ著（長谷川啓三訳）『変化の原理』, 法政大学出版社, 1992 年</p> <p>【学習する上での留意点】 米国ではこの領域における PSW や CP の活躍が目立つ。受講生にも自らの援助技術や治療技術と照らし合わせてみることをすすめる。</p>	
1 2. テーマ	構成主義、構築主義など
<p>【学習の目標】 認知行動療法から構成主義精神療法への展開について概観し、心理療法の未来を思い描いてみる。最近の話題であるナラティブ・セラピーをめぐり、その思想的背景と技法的特徴について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 1) グラザースフェルトによる認知科学的なラディカル構成主義について紹介する。 2) ドイツ語圏では、これが最大の学派になり、「一般システム療法（AST）」へと発展した。 3) これと似て非なる社会構築主義の基本的な考え方、治療への応用について学習する。 4) 医学においても、EBM に対し NBM (Narrative Based Medicine) を唱える動きがある。</p> <p>キーワード] コンストラクティヴィズムとコンストラクショニズム、ナラティブ・モデル、リフレクティング・チーム、ソーシャル・コンストラクション、「現実是人々の間で構成される」</p> <p>【学習の課題】 1) 教員自身の臨床現場から、思春期妄想症の患者に対する描画をとり入れた精神療法が提示される。 2) この事例では、患者自身が自発的に描いた絵によって治療過程が忠実に映し出されている。 3) 治療者による ad hoc な構成がそのつど患者にどのような影響を及ぼすか追跡してみる。 4) この事例は精神療法が誘発する「変化」の実例として、受講生間の自由な討論にゆだねられる。</p> <p>【参考文献】 マイケル・J・マホーニー編（根建金男ほか監訳）『認知行動療法と構成主義心理療法—理論・研究そして実践』, 金剛出版, 2008 年 シーラ・マクナミー, ケネス J. ガーゲン編（野口裕二, 野村直樹訳）『ナラティブ・セラピー (社会構築主義の実践)』, 金剛出版, 1997 年</p> <p>【学習する上での留意点】 社会構築主義の盛名に隠れて、認知的な構成主義のほうはほとんど人口に膾炙されることがない。教員自身はむしろ後者のほうからより多くのものを学んだ経緯をもち、ここでも、少しくふれさせていただくつもりである。</p>	

セクション5：精神医学の分子生物学	
13. テーマ	シナプス伝達の分子動態をめぐって
<p>【学習の目標】 精神科薬物療法の基礎として、脳内の神経伝達物質、神経調節物質および受容体に関する分子動態について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中枢神経系の薬理学における重要な特徴「血液脳関門」の働きについて理解する。 2) 神経伝達物質ないし神経調節物質をいくつかグルーピングして頭に入れる。 3) 受容体をGタンパク結合性受容体とリガンド依存性チャンネルとに種別して整理する。 4) 向精神薬のシナプスにおける作用部位について、模式図を見ながらよく理解する。 <p>【キーワード】 グルタミン酸、γ-アミノ酪酸 (GABA)、ドーパミン、セロトニン、ノルアドレナリン、アセチルコリン、クローニングによる受容体サブタイプの同定</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科治療薬の効果がゆっくり発現することから、その薬理機序について推測してみる。 2) シナプス伝達に関する従来の見方がどのように更新されたか、最新の知見にあたってみる。 3) タンパクのリン酸化が媒介する神経の可塑性について、その概要を理解する。 4) シナプスを介した遺伝子発現の制御メカニズムについて、その概要を理解する。 <p>【参考文献】 ナンシー C. アンドリアセン著 (武田雅俊, 岡崎祐士訳) 『脳から心の地図を読むー精神の病を克服するために』, 新曜社, 2004 年 ステイブン E. ハイマン, エリック J. ネスラー著 (融道男, 澁谷治男訳) 『精神医学の分子生物学』, 金剛出版, 1997 年</p> <p>【学習する上での留意点】 精神疾患について「脳から生じ、心として表現される」というイメージをもてるようになるかどうか。臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士にとって、脳科学の進歩への一瞥はもはや欠かすことのできない背景知識の1つであるといえる。</p>	
14~15. テーマ	コメディカルのための精神薬理学
<p>【学習の目標】 近年、第二世代型抗精神病薬や選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (SSRI) の開発によって、精神科臨床は少なからぬ変容を遂げつつある。薬物療法は精神療法と対立するどころか、むしろその前提と考えるべきであることを、しっかり頭に入れてほしい。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 抗精神病薬、抗うつ薬・抗躁薬の開発の歴史について学び、現況を知る準備を整える。 2) 第二世代抗精神病薬のメリットについて学び、従来薬からの切り替えのノウハウについて学ぶ。 3) 選択的セロトニン再取り込み阻害剤の諸種の適応について学び、効果のエビデンスについて知る。 4) 抗不安薬・睡眠薬の薬理の概要を把握し、その使い方についても一応の知識を得る。 <p>【キーワード】 セロトニン-ドーパミン拮抗薬 (serotonin-dopamine antagonist, SDA)、多元受容体標的化抗精神病薬 (multi-acting-receptor-targeted-antipsychotics, MARTA)、選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (selective serotonin reuptake inhibitor, SSRI)、セロトニン-ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (serotonin-noradrenaline reuptake inhibitor, SNRI)、ノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性抗うつ薬 (noradrenergic and specific serotonergic antidepressant, NaSSA)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) PET を用いた分子イメージングによる抗精神病薬の薬効評価という最新の成果について概観しておく。 2) D2 受容体占有率と EPS (extrapyramidal symptom) の発現との関係から therapeutic window (治療の窓) が確定できる。 3) 向精神薬の副作用について、その症状と対策に即して網羅的に一瞥しておく。 4) 精神科薬物療法と認知行動療法との折り合いについて、具体的な治療例を思い描いてみる。 <p>【参考文献】 融道男著『向精神薬マニュアル 第3版』、医学書院、東京、2008年</p> <p>【学習する上での留意点】 このテーマについては、前年度に、元放送大学教授、現さいたま市立病院総合診療科 (精神科) 部長仙波純一先生による特別授業があった。院生諸君には、そのさいに配布されたパワーポイントのハンドアウトをぜひ複写するようにお勧めしたい。</p>	

1. 科目名 (単位数)	障害者 (児) 心理学特論 (2 単位)				平成 23 年度	
2. 授業担当教員	中里 克治					
3. 開講学期	秋期					
4. 授業科目の区分	選択研究科目群			5	必修・選択の区分	選択
6. 履修可能な専攻	P	課 程	M	履修学年 (履修条件)		1 年次以上
7. 授業形態 (通学教育)	講義			履修形態 (通信教育)		R
8. 講義概要	障害 (disorder) という用語は、ICD・10 (国際疾病分類 第 10 版 WHO 1992) では、個人的な機能上の苦痛や阻害に伴って臨床的に明らかな、認知可能な一連の症状や行動が存在している時に用いられる。このような枠組みの中で、障害の分類を基本に学び、障害者の心理について考察を深め、さらには様々な事例を用いながら、障害者に対しての心理的な援助の技術を体得することを目指す。					
9. 学習目標	障害について基本的な知識を学び、援助の方法を身につける。障害の分類と理念とについて学ぶ。次いで、脳・神経系の機能と、その障害について十分な知識を身につける。さらに、各種障害の特性とその心理について課題研究を中心に学習する。さらに障害児・者と、彼らを取り巻く周囲の人々の心理を考え、その支援について、臨床心理学の立場からの学習を深め、実践研究を取り上げる。					
10. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	障害についての臨床心理学研究事例を調べ発表する。					
11. 教科書 参考書・教材	【教科書】 障害臨床学 【参考文献】 障害白書 障害児早期療育ハンドブック 学苑社					
12. 成績評価の方法	評価基準 課題研究・課題発表 40% 論文 40% 授業への参加意欲・態度 20%					
13. 受講生へのメッセージ	法律や制度上の障害児・者に対する対応は大きく変化してきている。しかし、実際の福祉や教育は未だ充分とはいえない。さらに臨床心理学的見地にたってみると、研究数は少なく、未開拓部分が多い。障害者を理解した上でさらに障害者への有効な援助について研究を深めたい。先行研究を充分理解した上で必要な研究は何かを確かめ、実践し障害者への福祉や教育に貢献できる研究をすすめてもらいたい。					
14. オフィスアワー	別途通知します。					
15 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】						
1. テーマ	障害とは何か					
	【学習の目標】 障害の概念について理解する。 【学習の内容】 障害の理念と分類について学ぶ。 【キーワード】 WHO、国連の「障害者の権利宣言」、日本の「障害者基本法」の障害についての理念を理解する。ICIDH、ICF などの分類を学ぶ。 【学習の課題】 障害を定義、考え方から理解する。 【参考文献】 ICD-10, DSM-IV-TR, 障害者福祉法 【学習する上での留意点】 多くの資料から検討する。					
2、3. テーマ	脳・神経系の機能と障害					
	【学習の目標】 脳・神経系の機能を理解する。 【学習の内容】 障害と深く関係する脳と神経の機能と障害についての基礎知識を学ぶ。 【キーワード】 ヒトの神経系 脳の区分と構造 【学習の課題】 障害は治癒力をもつ。成長し、変化する力をもっていることを理解する。 【参考文献】 障害臨床学 【学習する上での留意点】 脳、神経系について基本的な知識を理解すること。					

4 . テ ー マ	早期発見と早期療育
<p>【学習の目標】 早期発見、早期療育のために何が必要か、を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 学齢期以前の障害児への対応について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 早期発見・早期療育システム、早期療育、統合保育、</p> <p>【学習の課題】 年齢、障害の多様化を理解し、育てにくい子どもとその保護者に対する働きかけを学ぶ。</p> <p>【参考文献】 障害児早期療育ハンドブック 学苑社</p> <p>【学習する上での留意点】 地域で実施している実際の施策を知る、など具体的な方策を考える。</p>	
5 テ ー マ	障害児教育と福祉
<p>【学習の目標】 障害児教育と障害者に対する支援内容を知る。</p> <p>【学習の内容】 学齢期以後の障害児の教育、障害者に対する施策の内容について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 障害児教育、特別支援教育、インクルージョン教育、障害者のための施設、就労支援</p> <p>【学習の課題】 障害児のための教育、障害者のための福祉について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 障害臨床学、障害者白書</p> <p>【学習する上での留意点】 障害児、者を支える教育、福祉について学ぶ。</p>	
6 7 . テ ー マ	[知的障害の心理と臨床
<p>【学習の目標】 知的障害とはどういう人かを知る。</p> <p>【学習の内容】 知的障害の定義、原因について学ぶ。</p> <p>知的障害をもつ人の心理的特徴と今までの臨床実践と研究について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 AAMR, Normalization, ダウン症</p> <p>【学習の課題】 知的障害児・者の福祉・教育における実践報告を調べ、発表する。</p>	
8 9 1 0 . テ ー マ	広汎性発達障害について
<p>【学習の目標】 自閉性障害、多動性障害、学習障害などについて学ぶ。これらの障害を持った人のことは未解決の問題が多いが、実践報告は少なくない。論文・報告を読み、発表と討議を行う。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 広汎性発達障害の概念 2) 広汎性発達障害の各障害（自閉症、レット症候群、アスペルガー症候群、小児性崩壊性障害、その他）について 3) 学習障害について、症状、診断、治療のアプローチ 4) 多動性障害について <p>【キーワード】 DSM-IV、注意欠陥/多動性障害</p> <p>【学習の課題】 広汎性発達障害の臨床事例報告を読む</p>	
1 1 . テ ー マ	重症心身障害者について
<p>【学習の目標】 重症心身障害児・者に対する援助について考える。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 重複障害は、どのような問題を抱えているか。 2) てんかんについて 3) 診断と治療 <p>【キーワード】 ライフサイクル、先天異常、島田療育園、秋津療育園、高崎コロニー</p> <p>【学習の課題】 重症心身障害児福祉の現状と問題点 重症心身障害者についての実践論文を調べる</p>	
1 2 . 1 3 . テ ー マ	認知症の心理
<p>【学習の目標】 認知症についての研究方法を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 認知症の心理治療はどのようになされるか。</p> <p>【キーワード】 認知症の中核症状、周辺症状、自尊心、死の受容</p> <p>【学習の課題】 認知症の改善策を考える。</p> <p>【参考文献】 在宅認知症診療マニュアル 実践から学ぶ やさしい臨床心理学 原 千恵子・奥村水沙子 学苑社</p> <p>【学習する上での留意点】 論文を多く見る。</p>	
1 4 . テ ー マ	障害児・者の家族の支援
<p>【学習の目標】 身近に障害を抱えた人がいる場合、親・きょうだいたちはどういった心理状態にいるのか、どういう支援が必要なのかを学び、実習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害児の親・家族の心理について、障害受容、ストレス・コーピング等について学ぶ。 2) 親・家族の支援について事例を中心に学ぶ。 <p>【キーワード】 告知、障害受容、ライフサイクル</p> <p>【学習の課題】 障害者の親のグループ、きょうだいの会、リハビリテーション</p>	
1 5 . テ ー マ	まとめ
学んだことを振り返る。	

1	科目名 (単位数)	学校臨床心理学特論 (2 単位)			平成 23 年度	
2	授 業 担 当 教 員	石川 清子				
3	授 業 科 目 の 区 分	選択研究科目群			4	必修・選択の区分
5	履 修 可 能 な 専 攻	P	課 程	M	6	履修学年 (履修条件)
7	授 業 形 態	講義			履修形態 (通信教育)	
8	講 義 概 要	学校教育を巡る状況はさまざまな問題を含んでいる。こども達が学び育つ過程で生起する問題は、私たち大人に何を問いかけているのか、そして、臨床心理学が学校という場でどのような役割を果たし得るのか考究する。				
9	学 習 の 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校環境における子どもの望ましい発達について考察し、学習の場に存在する諸問題について、原因とその対処法を指摘できる。 2. 世界経済のグローバル化に伴う新しい教育のあり方を確認し、子どもの健全な心の発達に関し考察できる。学校環境における子どもの人間関係と自尊感情要因について理解できる。 3. 子どものウェルビーイングを考え、地域・学校・家庭における理想的な学校臨床の姿を考察し、教育現場で実践できる。 				
10	学 習 の 課 題 アサイメント(宿題) 及びレポート課題等	報告レジュメ (小論文) の提出 研究論文検索 (最低 1 つ、コピーして添付する)				
11	教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>横湯園子 「教育臨床心理学」 東京大学出版、2002 年 沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」 日本評論社、2002 年</p> <p>【参考文献】</p> <p>川島一夫・勝倉孝治 「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」 ブレーン出版、2004 年 吉田武男・中井考章著 「カウンセラーは学校を救えるか」 昭和堂、2003 年 斎藤久子 (監) 「学習障害」 ブレーン出版、2000 年 内田照彦・増田公男編著 「要説 発達・学習・教育臨床の心理学」 北大路書房、2000 年 村山正治編集 「現代のエスプリ」 別冊 「臨床心理士によるスクールカウンセラー：実際と展望」 至文堂、2000 年 山下英三郎著 「エコロジカル子ども論 教育から共生へ」 学苑社 1999 年 北尾倫彦他 5 名共著 『学校教育の心理学 明日から教壇に立つ人のために』 北大路書房、1999 年 Cross, Jerry & Cross, P.J. Knowing Yourself Inside Out. Crystal Publications, 1998 岡堂哲雄編集 「現代のエスプリ別冊」 『親子の心理とウェルネス：21 世紀の幸福な親子関係を目指して』 至文堂、1994 年 山本和郎 「コミュニティ心理学：地域臨床の理論と実践」 東京大学出版会、1986 年 岡堂哲雄編集 「現代のエスプリ：家族療法と親教育」 215 号、至文堂、1985 年 Spiegelberg, Herbert Phenomenology in Psychology and Psychiatry Northwestern University Press, 1972.</p>				
12	評価の基準と方法	<p>(評価基準) 報告レジュメ (15 課題) 100%</p> <p>(評価点) A: 100~90 B+: 89~80 B: 79~70 C: 69~60 F: 59 点以下</p> <p>※通学・通信共通</p>				
13	受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> * 各課題に対し臨床心理士という専門家としての視野を広げるためにも、近年の研究状況を把握していることは必要不可欠です。したがって、文献検索作業を徹底してください。 * 通信生は、スクーリングの機会に、レポートの書き方等詳細を説明しますので、その時間を有効に使って下さい。 * 批評・討論の力を養うためにも、積極的に文献研究を行ってください。 * 各課題で添付する研究論文のコピーは、返却いたしませんのでご承知ください。 				
14	オフィスアワー	追って連絡いたします。				

15 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1 . テ ー マ	教育臨床心理学とは何か
<p>【学習の目標】教育臨床心理学とは何か。なぜ学校臨床心理学が学校という環境に必要となったのか、その経路を理解する。</p> <p>【学習の内容】 海外のスクールカウンセリングと教育臨床心理学の状況を比較し、日本の学校におけるカウンセリングの現状を把握する。</p> <p>【キーワード】教育臨床心理学・スクールカウンセラー</p> <p>【学習の課題】日本の現状を踏まえて、教育臨床心理学の問題点を指摘し、改善すべき点をまとめなさい。</p> <p>【参考文献】 横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年 石隈利紀 学校における心理教育的サービスの現状と展望「学校臨床そして生きる場への援助」沢崎俊之他(篇)23—56 日本評論社、2002年 河合隼雄 「臨床教育学入門」岩波書店 1999年 村山正治・山本和郎 「スクールカウンセラー」ミネルヴァ書房、1995年</p> <p>【学習する上での留意点】 報告レジュメ(2ページ)作成においては、表題をつけて、どの観点から討論をしているのかが分かるように配慮してください。なお、引用文献は、少なくとも3つ、そのうち一つは、研究論文であること。研究論文は、コピーしたものを添付してください。</p>	
2 . テ ー マ	学校臨床心理学の可能性
<p>【学習の目標】学校という生活環境を理解し、学校における心理教育的援助サービスの在り方を解明する手がかりを得る。</p> <p>【学習の内容】学校臨床心理学と学校心理学の合流を目指す、心理教育的援助サービスの現状を把握する。</p> <p>【キーワード】学校臨床心理学・学校心理学・学校教育・心理教育的援助サービス</p> <p>【学習の課題】心理教育的援助サービスの具体例を先行研究より調査し、その結果から考えられる今後の方向性を指摘しなさい。</p> <p>【参考文献】 沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002年 馬場謙一 「学校臨床心理学」財団法人放送大学教育振興会 22—31、2002年 高澤健司 「学校心理学に基づく児童生徒の援助」発達研究会、2002年 石隈利紀「学校心理学に基づく学校カウンセリングとは」『カウンセリング研究』No. 29, 226-239, 1996年. 村山正治編集 「現代のエスプリ」別冊「臨床心理士によるスクールカウンセラー：実際と展望」至文堂、2000年 保阪 亨 「学校を欠席する子どもたち」東京大学出版会、2000年 森田洋司 「不登校」現象の社会学 学文社、1991年</p> <p>【学習する上での留意点】 報告レジュメ(小論文)の書き方は上記(課題1)の通りですが、課題2からは各課題に関して教科書を読んだ上で、問題意識をもってそのテーマに沿って文献検索し、先行研究論文の方法論・結果・考察から比較検討して、まとめてください。</p>	
3 . テ ー マ	教育現場の現実：攻撃性とその対応
<p>【学習の目標】学校教育の実状を把握する。その一環として、子どもの攻撃性への対応を理解する。</p> <p>【学習の内容】 学習環境における子どもの望ましい発達について考察し、学習の場における諸問題に関し、その原因と対処法を考察する。</p> <p>【キーワード】人間理解・攻撃性・危機感</p> <p>【学習の課題】子どもの攻撃性とその対応に関し、効果的な対応方法について近年の先行研究結果から指摘しなさい。</p> <p>【参考文献】 横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年 ・ 岡本淳子 2001 「学校危機に取り組むスクールカウンセラー」 亀口憲治(篇) 現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 ・ 407号、40—51 至文堂 ・ 今泉博 1999 「崩壊クラスの再建」 学陽書房</p> <p>【学習する上での留意点】課題1・2を参照</p>	
4 . テ ー マ	教育現場の現実：いじめ・いじめられ、暴力問題
<p>【学習の目標】教育現場の現実を直視する。</p> <p>【学習の内容】学習環境における問題の一つとして、いじめ・いじめられることによる子ども達の暴力問題を考える。</p> <p>【キーワード】いじめ・いじめられ・暴力問題・ストレス障害・スクールソーシャルワーカー</p> <p>【学習の課題】 学習環境における子ども達の諸問題は彼らの学習意欲を減退させる原因ともなる。従って、学校臨床家にとって、問題対応のあり方は重要な問題である。最近の実証研究を調査し、まとめなさい。</p> <p>【参考文献】 横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年 門田光司 「学校ソーシャルワーク」中央法規、2002年 河合隼雄 いじめと暴力 臨床教育学入門 170—180 岩波書店、1995年 福田博行 いじめ問題に取り組む教師の実践的展開 亀口憲治(篇) 現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407号、63—72 至文堂、2001年</p> <p>【学習する上での留意点】課題1・2を参照</p>	

5 . テー マ	教育現場の現実：見え隠れする子どもの虐待
<p>【学習の目標】教育現場の現実を直視する</p> <p>【学習の内容】虐待問題における問題意識のルーツの解明をはかる。</p> <p>【キーワード】児童虐待・身体的虐待・心理的虐待・性的虐待・ネグレクト・登校拒否・家庭内暴力</p> <p>【学習の課題】近年増加する虐待について、この問題解決にあたっての日本の現状を調査しなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年</p> <p>門田光司 「学校ソーシャルワーク」中央法規、2002年</p> <p>三沢直子 「児童虐待問題を抱えた学校への心理的支援」亀口憲治(篇) 現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407号、82-91 至文堂、2001年</p> <p>津崎哲郎 指導相談所の今 発達 No.98, Vol. 25、p.28-34、ミネルヴァ書房、2004年</p> <p>【学習する上での留意点】課題1・2を参照</p>	
6 . テー マ	教育現場の現実：教師の苦しみ、癒しを、求める声
<p>【学習の目標】教育現場の現実を直視する</p> <p>【学習の内容】教師の苦しみについて理解を深め、その癒し方、対応について考える。</p> <p>【キーワード】癒し・ストレス・燃え尽き症候群・ストレスマネジメント</p> <p>【学習の課題】</p> <p>近年教師の質の低下を指摘する保護者の声を良く耳にする。しかし、日本の社会は着実に複雑化し、学校環境もまた同様に変容してきている。その様な中、学校に対する保護者の期待は多大であり、教師のストレスに関する研究は重要である。問題を設定し、先行研究結果から自己の問題を分析しなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>落合美貴子「教師バーンアウト研究の展望」教育心理学研究、No. 51(3)、 p.351-364、2003年</p> <p>横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年</p> <p>河野友信・田中正敏 「ストレスと科学と健康」改訂版 朝倉書店、1998年</p> <p>【学習する上での留意点】課題1・2を参照</p>	
7 . テー マ	まとめ(1)
<p>【学習の目標】前年の講義内容から、臨床心理学・社会心理学的視野より近年の社会問題に関して学ぶ。</p> <p>【学習の内容】各自の問題意識に従って、討論していく。</p> <p>【学習の課題】近年の学校が直面する問題に関して、先行研究から自己の見解を確認する。</p> <p>【学習する上での留意点】各自の問題意識に従ってテーマは自由に設定し、文献により分析・考察しておく。</p>	
8 . テー マ	学校という場でできること
<p>【学習の目標】離婚がもたらす家庭の危機について理解する。また、入所施設における学校教育との協働の試みを理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>子どもの危機を乗り越える為に学校臨床心理士としてできる対応・支援について近年の傾向を把握し、問題点を考察しなさい。</p> <p>【キーワード】</p> <p>母子家庭・父子家庭・一人親家族・離婚家庭・情緒障害児・グループレクリエーション・キッズスクールプログラム・危機介入・教育コミュニティ・入所治療施設</p> <p>【学習の課題】</p> <p>子どもの心理的危機を乗り越える為に、学校においてどのような対応・支援が行われているか、先行研究をもとに最近の傾向をまとめなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002年</p> <p>岡堂哲雄編集 「現代のエスプリ：家族療法と親教育」215号、至文堂、1985年</p> <p>堀田香織 「学校という場でできること」「学校臨床そして生きる場への援助」沢崎俊之他(篇) 141-158 日本評論社、2002年</p> <p>内田江里・遊佐安一郎 学校臨床そして生きる場への援助 亀口憲治(編) 現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407号、P.151-160 至文堂、2001年</p> <p>【学習する上での留意点】課題1・2を参照</p>	
9 . テー マ	思春期・青年期へのアプローチ：自己の解体と再編成
<p>【学習の目標】地域精神保健福祉ネットワークづくりを理解する。</p> <p>【学習の内容】地域における障害を持つ子ども達の精神保健の在り方を考える。更に、福祉支援ネットワークづくりを考える。</p> <p>【キーワード】精神保健福祉・ネットワーク・就労支援</p> <p>【学習の課題】</p> <p>地域精神保健福祉ネットワークづくり実践状況を把握し、臨床心理士としてコミュニティへのかかわり方をどうすべきか述べなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>門田光司 「学校ソーシャルワーク」中央法規、2002年</p> <p>沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002年</p> <p>【学習する上での留意点】課題1・2を参照</p>	

10. テーマ	思春期・青年期へのアプローチ：「悪」的なるもの、秘密の共有
<p>【学習の目標】 思春期・青年期の主たる概念を理解し、アプローチの在り方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 思春期・青年期の主たる問題を理解し、彼らの自我統合へ向けてのアプローチの在り方を考察する。</p> <p>【キーワード】 思春期・青年期・自我統合（自己の解体と再編成）・スチューデントアパシー・自殺・登校拒否</p> <p>【学習の課題】</p> <p>思春期・青年期における子供たちの問題において、特に彼らのウエルビーングを目指しどのような対応がなされているか、実証研究の結果をもとに今後の研究のあり方を述べなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>溝上慎一「焦点モデルの教育・臨床：実践への適用と課題」発達、No.98、Vol.25、p.83-85、ミネルヴァ書房、2004年</p> <p>横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年</p> <p>平石賢二・杉村和美「中学生の役割緊張に関する研究：コンピテンス及びストレス反応との関連から」青年心理学研究、8号、p.27-40、1996年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	
11. テーマ	思春期・青年期へのアプローチ：聴きとられること、語るということ
<p>【学習の目標】 教育コミュニティにおける援助活動の在り方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイルを考察する。</p> <p>【キーワード】 教育コミュニティ・学生相談・サポート</p> <p>【学習の課題】 教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイルに関する研究を調査し、まとめなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>川島一夫・勝蔵孝治 「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」ブレーン出版、2004年</p> <p>沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002年</p> <p>斎藤憲司 「ひととあうことの専門性」垣内出版、2002年</p> <p>斎藤憲司 「教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイル：学生相談の現場から」沢崎俊之他(編) 「学校臨床そして生きる場への援助」p.87-112、日本評論社、2002年</p> <p>内田照彦・増田公男編著 「発達・学習・教育臨床の心理学」北大路書房、2000年</p> <p>藤原勝紀 「学生相談の大学における位置と役割：これからの学生相談を求めて」河合隼雄、藤原勝紀(縁)「学校相談と心理臨床：心理臨床の実際」p.11-12、1998年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	
12. テーマ	スクールカウンセリングを考える
<p>【学習の目標】 21世紀の日本の現状に伴うスクールカウンセリングの在り方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 スクールカウンセリングの役割、援助活動について考察する。</p> <p>【キーワード】 スクールカウンセリング・スクールカウンセラー・臨床心理士・コンサルテーション</p> <p>【学習の課題】 スクールカウンセリングの役割、援助活動に関する研究を調査し、今後の役割の在り方を討論しなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>川島一夫・勝蔵孝治 「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」ブレーン出版、2004年</p> <p>吉田武男・中井孝章著 「カウンセラーは学校を教えるか」昭和堂、2003年</p> <p>横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年</p> <p>内田照彦・増田公男編著 「発達・学習・教育臨床の心理学」北大路書房、2000年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	
13. テーマ	スクールカウンセリングの実際
<p>【学習の目標】 スクールカウンセリングの実際を理解する。</p> <p>【学習の内容】 スクールカウンセリングの実際として、専門職としての倫理観、予防的対応としての教育等について考える。</p> <p>【キーワード】 人間関係・プライバシー・コンサルテーション・スーパーバイザー</p> <p>【学習の課題】</p> <p>現状を踏まえて、スクールカウンセリングを実施していく上での問題点を把握し、その改善に関する先行研究及び実践活動の結果から見られる要因を指摘しなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>川島一夫・勝蔵孝治 「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」ブレーン出版、2004年</p> <p>横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年</p> <p>内田照彦・増田公男編著 「発達・学習・教育臨床の心理学」北大路書房、2000年</p> <p>黒澤幸子 「スクールカウンセリング5本柱」村山正治(編)「臨床心理士によるスクールカウンセラー：実際と展望」『現代のエスプリ別冊』p.89-99、至文堂、2000年</p> <p>伊藤美奈子「学校側から見た学校臨床心理士(スクールカウンセラー)活動の評価：前項アンケート調査の結果報告」臨床心理士報、No.11(2)、p.21-42、2000年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	

14. テーマ	生きている場への援助：家族臨床
<p>【学習の目標】 家族援助の重要性を理解する。</p> <p>【学習の内容】 生きている場への援助として、家族援助の在り方を考察する。</p> <p>【キーワード】 家族臨床・セラピストチーム・ジョイニング（参入）・システムアプローチ・人権尊重</p> <p>【学習の課題】</p> <p>学校臨床心理学においては、子どもと家族・家庭を切り離して対応することはできない。近年の家族臨床に関する研究の傾向を把握し、家族への支援の在り方に関して、先行研究結果をもとに指摘しなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>岡田弘「保護者とのつき合いはなぜ必要か」 国分康孝他（監） 「保護者との対応」 図書文化社、2003年</p> <p>横湯園子「教育臨床心理学」 東京大学出版、2002年</p> <p>内田江里・遊佐安一郎 「学校心理臨床と家族：システムアプローチによる学校と家族の連携」『現代のエスプリ』407号、p. 151 - 160、至文堂、2001年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	
15. テーマ	教師の実践に学ぶ
<p>【学習の目標】 教師の実践を理解する。</p> <p>【学習の内容】 本科目のまとめとして、教師と心理臨床家の協働の在り方を考察する。</p> <p>【キーワード】 ライフコース・協働</p> <p>【学習の課題】 教師と心理臨床家の協働の在り方について、現状を踏まえて問題点を指摘し、改善すべき点をまとめなさい。</p> <p>【参考文献】</p> <p>川島一夫・勝蔵孝治 「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」 プレーン出版、2004年</p> <p>吉田武男・中井考章著 「カウンセラーは学校を救えるか」 昭和堂、2003年</p> <p>沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」 日本評論社、2002年</p> <p>内田江里・遊佐安一郎 「学校心理臨床と家族：システムアプローチによる学校と家族の連携」 亀口憲治（編）『現代のエスプリ』407号、p. 151—160、至文堂、2001年</p> <p>村山正治 「校内システムの問題」 河合隼雄他（監）『心理臨床の実際』第2巻 p. 207—208、1999年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>	

1. 科目名 (単位数)	芸術療法特論 (2 単位)			平成 23 年度	
2. 授業担当教員	鈴木 康明				
3. 開講学期	春期				
4. 授業科目の区分	F		5	必修・選択の区分	選択
6. 履修可能な専攻	P	課 程	M	履修学年 (履修条件)	1 年次以上
7. 授業形態(通学教育)	講義			履修形態 (通信教育)	S
8. 講義概要	芸術療法の持つ治療的役割と意義とあわせ、心理アセスメントとしての機能についても言及する。 なお臨床心理行為は、かかわる側の人間性や価値観が強く反映するきわめて人間くさいものであることから、前述した臨床心理学の知見の獲得と並行し、自らのあり方や考え、さらには人間関係における癖などについての理解も求める。				
9. 学習目標	次の二点である。 1 芸術療法の理論的枠組みと代表的な技法の概要及び実際の展開について理解する。 2 自らの性格傾向を理解するための努力をする。				
10. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	単元ごとにレポートを作成するが、内容や書式などの詳細については講義中に指示する。				
11. 教科書 参考書・教材	【教科書】 徳田良仁・大森健一他監修 (1998)「芸術療法 1 : 理論編」岩崎学術出版社 【参考文献】 山中康裕編著 (2003)「表現療法」ミネルヴァ書房 徳田良仁・大森健一他監修 (1998)「芸術療法 2 : 実践編」岩崎学術出版				
12. 成績評価の方法	試験	50%	レポート	50%	
13. 受講生へのメッセージ	演習と文献講読も行う。				
14. オフィスアワー	別途通知します。				
15. 学習の展開及び内容	【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】				
1 . テ ー マ	心理臨床が対象としている「心」について				
PART I 【学習の目標】 体験学習を通し、関係存在である自らのあり方を学習する。 【学習の内容】 S S T を枠組みとするエクササイズを行う。 【キーワード】 S S T、個別性、独自性、価値観 【学習の課題】 気づいたことは何か、考えたことは何か整理する。 【参考文献】 鈴木康明著 (1998)「共感的態度の形成」川島書店 【学習する上での留意点】 動きやすい服装で出席すること。					
PART II 【学習の目標】 体験学習を通し、かかわりの意味と意義について学習する。 【学習の内容】 ファシリテーター養成のために開発したエクササイズを行う。 【キーワード】 自由、安全、保障 【学習の課題】 気づいたことは何か、考えたことは何か整理する。 【参考文献】 鈴木康明著 (2003)「死別体験者のためのサポート活動」(『ターミナルケア』Vol.13 No.5) 三輪書店 【学習する上での留意点】 他者の何が理解でき何が理解できないかについてあらかじめ考察しておくこと。					
2 . テ ー マ	「語り」について				
PART I 【学習の目標】 臨床心理行為の基盤となるクライアントの語りとはどのようなことなのか学習する。 【学習の内容】 傾聴訓練のため開発したエクササイズを行う。 【キーワード】 語り、話す、聴く 【学習の課題】 気づいたことは何か、考えたことは何か整理する。 【参考文献】 鈴木康明著 (1999)「生と死から学ぶ」北大路書房 【学習する上での留意点】 きめつけや思いこみは何かから生じるかあらかじめ考察しておくこと。					
PART II 【学習の目標】 死別の悲しみの「語り」を取り上げ、傾聴の意味と意義について学習する。 【学習の内容】 傾聴訓練のため開発したエクササイズを行う。 【キーワード】 喪の語り、死別、悲嘆 【学習の課題】 気づいたことは何か、考えたことは何か整理する。 【参考文献】 鈴木康明著 (2007)「グリーフ・カウンセリング：死別の悲しみへの援助」(山崎久美子編『臨床心理クライアント研究セミナー』) 至文堂 【学習する上での留意点】 死別の悲しみとはどのようなものかあらかじめ考察しておくこと。					

3 . テ ー マ	芸術療法の理論 1
<p>【学習の目標】精神療法としての芸術療法の特徴、かかえる諸領域、歴史と発展について学習する。</p> <p>【学習の内容】 精神医学と芸術療法 1 医療と芸術医学について 2 身体の諸機能の語るものとは何か 3 人間のための医学芸術 4 芸術療法の諸領域 5 芸術療法の趨勢と発展</p> <p>【キーワード】医療、身体、精神医学、表現、ホリスティック</p> <p>【学習の課題】芸術療法の特徴を理解する。②人間のホリスティックな理解とは何か理解する。</p> <p>【参考文献】「芸術療法 1」</p> <p>【学習する上での留意点】「芸術療法 1」の 11～27 頁を予習しておくこと。</p>	
4 . テ ー マ	芸術療法の理論 2
<p>【学習の目標】芸術療法の有益性と留意点について学習する。</p> <p>【学習の内容】 芸術療法の有益性と要留意点 1 関与しながらの観察 2 行動化、転移、解釈 3 示すことと語ること 4 3点性の対象関係 5 治療者のデカセクシス 6 要留意点</p> <p>【キーワード】関与しながらの観察、行動化、転移、解釈</p> <p>【学習の課題】 ①関与しながらの観察とはどのようなことか理解する。②クライアントの行動化、転移について理解する。③芸術療法が何かを語ることを助けることについて理解する。</p> <p>【参考文献】「芸術療法 1」</p> <p>【学習する上での留意点】「芸術療法 1」の 28～38 頁を予習しておくこと。転移について確認しておくこと。</p>	
5 . テ ー マ	芸術療法の理論 3
<p>【学習の目標】個人心理療法としての芸術療法の特徴を学習する。</p> <p>【学習の内容】 個人心理療法と芸術療法 1 個人心理療法としての芸術療法 2 絵画療法</p> <p>【キーワード】心理療法、ユング、表現療法、絵画療法</p> <p>【学習の課題】①心理療法、精神療法について理解する。②音楽療法、絵画療法の概要について理解する。</p> <p>【参考文献】「芸術療法 1」</p> <p>【学習する上での留意点】「芸術療法 1」の 39～55 頁を予習しておくこと。</p>	
6 . テ ー マ	芸術療法の理論 4
<p>【学習の目標】集団精神療法としての芸術療法の特徴を学習する。</p> <p>【学習の内容】 集団精神療法と芸術療法 1 集団精神療法の意義 2 表現について 3 集団芸術療法の段階と課題</p> <p>【キーワード】集団精神療法、相互関与、空間力動</p> <p>【学習の課題】①芸術療法の集団への適応について理解する。②芸術療法への導入、展開について理解する。</p> <p>【参考文献】「芸術療法 1」</p> <p>【学習する上での留意点】「芸術療法 1」の 56～66 頁を予習しておくこと。</p>	
7 . テ ー マ	芸術療法の理論 5
<p>【学習の目標】芸術療法における言葉の持つ意味と意義について学習する。</p> <p>【学習の内容】 芸術療法における言葉 1 言語と人間について 2 言語と精神療法 3 言語の限界 4 イメージ</p> <p>【キーワード】言語、非言語、創造性、イメージ</p> <p>【学習の課題】①芸術療法がいかにか言語的であるか理解する。②精神療法場面における言葉の機能について理解する。</p> <p>【参考文献】「芸術療法 1」</p> <p>【学習する上での留意点】「芸術療法 1」の 67～78 頁を予習しておくこと。</p>	
8 . テ ー マ	芸術療法の理論 6
<p>PART I</p> <p>【学習の目標】芸術療法におけるイメージの役割について学習する。</p> <p>【学習の内容】 イメージ表現と芸術療法 1 イメージによる理解と治療 2 イメージの精神療法の外観 3 イメージ面接と芸術療法 4 イメージ療法</p> <p>【キーワード】イメージ、想像力、比喩</p> <p>【学習の課題】①感情そのものがイメージ的に表現されることを理解する。②イメージ的精神療法について特徴を理解する。</p> <p>【参考文献】「芸術療法 1」</p> <p>【学習する上での留意点】「芸術療法 1」の 150～161 頁を予習しておくこと。</p>	

PART II	
<p>【学習の目標】 芸術療法と心理テストの共通の評価について学習する。</p> <p>【学習の内容】 心理テストと芸術療法</p> <p>1 心理テストの特質 2 心理テストと芸術療法の共通性と相互性</p> <p>【キーワード】 心理テスト、能力検査、人格検査</p> <p>【学習の課題】 心理テストと芸術療法の共通性と相互性について理解する。</p> <p>【参考文献】 「芸術療法1」</p> <p>【学習する上での留意点】 「芸術療法1」の162～172頁を予習しておくこと。</p>	
9 . テ ー マ	芸術療法の実際1
<p>【学習の目標】 絵画療法の各種技法の理論と展開について学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>絵画療法の理論と展開</p> <p>1 絵画療法 2 特性 3 治療構造 4 多様なアプローチ</p> <p>【キーワード】 非言語的交流、バウムテスト、風景構成法</p> <p>【学習の課題】 ①絵画療法の特質について理解する。②諸技法の展開について理解する。</p> <p>【参考文献】 「芸術療法1」</p> <p>【学習する上での留意点】 「芸術療法1」の175～183頁を予習しておくこと。</p>	
10～11. テー マ	芸術療法の実際2
<p>【学習の目標】 絵画療法の各種技術うち、投映描画法テストバッテリーの理論と展開について学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>投映描画法テストバッテリー</p> <p>1 星と波テスト 2 バウムテスト 3 ワルテック描画テスト 4 筆跡</p> <p>【キーワード】 テストバッテリー、投映法、星と波テスト、ワルテック描画テスト</p> <p>【学習の課題】 ①投映法テストバッテリーの理論と展開について理解する。②特に星と波テストの理論について理解する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>「芸術療法1」</p> <p>鈴木康明・ブルーノ・リーネルら著(2000)「星と波テスト入門」川島書店</p> <p>【学習する上での留意点】 「芸術療法1」の175～183頁を予習しておくこと。</p>	
12～13. テー マ	芸術療法の実際3
<p>【学習の目標】 コラージュ療法の理論と実際について学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>コラージュ療法</p> <p>1 概説 2 アセスメントと適応 3 導入と具体的方法 4 留意点</p> <p>【キーワード】 コラージュ、箱庭療法、簡便性</p> <p>【学習の課題】</p> <p>①コラージュ療法の理論と展開について理解する。②コラージュ療法の治療的かかわりと予防、開発的かかわりについて理解する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>「芸術療法2」</p> <p>鈴木康明著(1999)「異文化間カウンセリングにおけるサラダ・ボールコラージュ」(森谷寛之・杉浦京子編『コラージュ療法』)至文堂</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>「芸術療法2」の46～56頁を予習しておくこと。のり、ハサミ、カッター、切り取ってよい雑誌やパンフレット、マンガなどを持参すること。</p>	
14 . テ ー マ	芸術療法の実際4
<p>【学習の目標】 ダンス療法の理論と展開について学習する。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>ダンス療法</p> <p>1 概説 2 セラピストについて 3 ダンス療法の考え方 4 技法</p> <p>【キーワード】 ダンス 心身一如 自然治癒力</p> <p>【学習の課題】</p> <p>①ダンス療法の理論と展開について理解する。②ダンス療法の治療的かかわりと予防、開発的かかわりについて理解する。</p> <p>【参考文献】 「芸術療法2」</p> <p>【学習する上での留意点】 「芸術療法2」の140～146頁を予習しておくこと。動きやすい服装で出席すること。</p>	
15 . テ ー マ	まとめ
<p>課題をまとめる。場合によっては箱庭療法体験学習。</p>	

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学研究法特論 (2 単位)			平成 23 年度	
2. 授業担当教員	石川 清子・田嶋 清一				
3. 開講学期	春期				
4. 授業科目の区分	F		5	必修・選択の区分	選択
6. 履修可能な専攻	P	課 程	M	履修学年 (履修条件)	1 年次以上
7. 授業形態 (通学教育)	演習			履修形態 (通信教育)	R
8. 講義概要	<p>質的研究方法によって、修士論文を書くために、質的研究方法の意義と方法を学ぶ。将来、心理臨床家になって、一人一人のクライアントを大切に、丁寧な関わりを持つようと考えている院生にとって、修士論文のための研究を、質的な観点に立つて行うことには大きな意義がある。</p> <p>具体的な質的研究方法としては、エピソード記述法、再詳述法など最も基本的な方法を学ぶ。また、それらの方法のバックグラウンドをなしている、現象学的な考え方として、ジェームズ, W. の考え方、レヴィン, K. の考え方、ベルグソン, H. の考え方、サルトル, J. P. の考え方、今西錦司の考え方などを学ぶ。(田嶋)</p> <p>本講義により、質的研究の在り方の根本を理解することを目指す。そのためにも、人間が存在するこの世界を過去の学者たちはどの様に見て来たのか、また、その問題をどのように扱って来たのか、ハイデッガーの存在論的見解について理解を深める。また、その哲学的背景を重要な見解とする現象学的研究法を検証して行く。(石川)</p>				
9. 学習目標	<p>1、質的研究方法と量的研究方法の違いを学ぶ。</p> <p>2、質的研究方法の意義を学び、質的研究方法によって修士論文が書けるようにする。</p> <p>3、ジェームズ, W. やベルグソン, H やレヴィン, K. の方法を学ぶ。(田嶋)</p> <p>4、エピソード記述法、再詳述法、M-GTA を学ぶ。(田嶋)</p> <p>5、質的研究法の代表的な 5 つのアプローチを分析し、その独自性を認識する。(石川)</p> <p>6、現象学的研究法を学ぶ。(石川)</p> <p>7、体験的学習を通して、質的方法論における限界と可能性に対する理解を深める。(石川)</p>				
10. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	随時、小レポートを課します。				
11. 教科書 参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>「自分と向き合う心理学 意志心理学入門」2007 田嶋清一著 ディスカヴァー (田嶋)</p> <p>Banister, P. 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008</p> <p>「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」新潮社</p> <p>【参考文献】 (田嶋)</p> <p>「宗教的経験の諸相 (上・下)」1902 ジェームズ, W. 著 榎田啓三郎訳 岩波書店</p> <p>「多元的宇宙」1909 ジェームズ, W. 著 吉田夏彦訳 ウィリアムジェームズ著作集6 日本教文社</p> <p>「哲学の根本問題」1911 ジェームズ, W. 著 上山春平訳 世界の名著 48 中央公論社</p> <p>「パーソナリティの力学説」1935 レヴィン, K. 相良・小川訳 岩波書店</p> <p>「思想と動くもの」(1934) ベルグソン、岩波書店</p> <p>「エピソード記述入門」2005 鯨岡峻著 東京大学出版会</p> <p>「質的心理学講座第1巻 育ちと学びの生成」2008 無藤・麻生編 東京大学出版会</p> <p>「質的研究の三つのジレンマ『再詳述法』の提案による質的心理学の可能性」2005 無藤隆著 質的心理学研究 (第4号 58-64) 新曜社</p> <p>「ワードマップ 質的心理学」2004 無藤・やまだら編 新曜社</p> <p>「ライブ講義、質的研究とは何か」ベーシック編・アドバンス編、2007、西條剛央 新曜社</p> <p>「グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践」2003 木下康仁 弘文堂</p> <p>【参考文献】 (石川)</p> <p>Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>, Pittsburgh: Duquesne University Press.</p> <p>Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry & Research Design</i>, London: Sage Publications.</p> <p>Hayes, N. 1997 <i>Doing Qualitative Analysis in Psychology</i>, UK: Psychology Press.</p>				
12. 成績評価の方法	(通学) レポート 50%、出席点・授業参加態度 50% (通信) レポートによる				
13. 受講生へのメッセージ	質的研究方法は、自分の内面を振り返ることにつながり、楽しいし、心理臨床に役立ちます。				
14. オフィスアワー	別途通知します。				

15 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1 . テーマ	質的心理学研究法について、オリエンテーション（石川、田嶋）
<p>【学習の目標】</p> <p>質的心理学研究法とは、出来上がって固定化した概念にとらわれることなく、ある現象の豊かさ（本質）を捉え、つかみ取ろうとする方法である。私たちには、基本的に、その能力があることに信頼を持ち、まずは日常語の論理を手がかりにしながら、それをも乗り越えていく方法である。伝統的な質的心理学研究法の成果としては、「宗教的経験の諸相」1902 ジェームズ,W. 著、などがある。（田嶋）</p> <p>質的心理学研究法とは、日常生活の中に生きている人々のありのままの姿から、当たり前になっている事柄を再検証するなど、根本的な人の生き様を深く見つめて行くことであると言われ、それは臨床心理士を目指す院生にとって最も近い方法論とも言える。そこで、1 回目では教科書「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」1 章によって、質的研究の定義とその歴史的背景を見て行く。（石川）</p> <p>【参考文献】</p> <p>「宗教的経験の諸相（上・下）」1902 ジェームズ,W. 著 柘田啓三郎訳 岩波書店 Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i>（五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」）新潮社</p>	
2 . テーマ	ジェームズ,W. の考え方、（田嶋）
<p>【学習の目標】</p> <p>教科書「自分と向き合う心理学 意志心理学入門」の7章の1によって、ジェームズ,W. の方法（できるだけ定義や既成の言語化・概念化に頼ることなく、内省と共感的理解に基づき、観察したその現象を記述していくこと）を学んでよく理解した上で、「宗教的経験の諸相（上・下）」を読み、その方法がどのように具現化しているかを知る。各章を分担して割り当てるので、読んで気づいたことを、院生各自がまとめて発表すること。</p> <p>【参考文献】 「哲学の根本問題」、「多元的宇宙」「宗教的経験の諸相（上・下）」</p>	
3 . テーマ	質的研究法の問題点
<p>【学習の目標】</p> <p>質的研究を実施するとき、この研究法が陥りやすい問題点を認識することは研究をする者の重要な姿勢である。また、その欠点をより現実を尊重する分析技術を持って補って行くことは必要不可欠である。「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」1 章によって、質的研究法の始まりとその問題点を確認し、方法論の理解を深めて行く。</p> <p>【学習の目標】</p> <p>本講義の第一回に引き続き、質的研究にはどのような研究方法論があり、どのような研究テーマに適しているのかを見極めていく。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i>（五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」）新潮社 マーフィ重松, S. 2001「多文化間カウンセリング」辻井宏美訳 東京大学出版会</p>	
4 . テーマ	レヴィン,K. の考え方、今西錦司. の考え方
<p>【学習の目標】</p> <p>教科書「自分と向き合う心理学 意志心理学入門」の7章の2によって、レヴィン,K. の方法（構造全体の決定因が最も明確に純粋に見分けられるような事態を探し出すこと—本質を見抜くことができるような具体例を提起すること）を学ぶ。さらに、教科書「自分と向き合う心理学 意志心理学入門」の7章の3によって、今西錦司. の考え方を学ぶ。</p> <p>【参考文献】 「パーソナリティの力学説」第1章参照のこと</p>	
5 . テーマ	質的研究が目指すもの：実存論と存在論 ハイデッガー、メルロ・ポンティ、ウイットゲンシュタインの人間論
<p>【学習の目標】</p> <p>質的研究の方法論は哲学的な知見が背景にあって方法論として成立するものである。特に現象学の知見は質的研究法に大きな影響を与えているといっても過言ではない。本講義は、ヘーゲルに始まりハイデッガーにいたる現象学の歴史的背景を理解し、この世界の中に存在し、日常生活を営んでいる人間をどのように見て行くべきなのか哲学者たちの見解を見て行く。これらの知見を知ること、なぜ人を研究テーマとした時に質的研究が重要なか理解できることを目指す。</p> <p>【参考文献】</p> <p>稲田智己 2006「存在の問いと有限性：ハイデッガー哲学のトポロギー的究明」晃洋書房 メルロ・ポンティ 2004 「見えるものと見えないもの」滝浦静雄・木田元訳 みすず書房 Dreyfus, H.L. 1991 <i>Being-in-the-World</i>, Cambridge: The MIT Press. Wittgenstein, L. 1966 <i>Philosophical Investigations</i>. New York: Macmillan Publishing.</p>	
6 . テーマ	ベルグソン, H. の考え方
<p>【学習の目標】</p> <p>ベルグソン,H. の方法「窮屈な習慣的理解（つまり偏見のヴェール）を棄て、見ようとする努力をする」を学ぶ。私たちは、とかく、生活の要求が押しつけている、窮屈な習慣的理解（つまり偏見のヴェール）にとらわれやすい。現象そのものを見るために、私たちがどのような偏見のヴェールにとらわれているかを振り返る。</p> <p>【参考文献】「思想と動くもの」（1934）ベルグソン、岩波書店</p>	

7 . テーマ	一般的な5つのアプローチを再確認
<p>【学習の目標】 質的研究法の主となるアプローチとしては、ナラティブ・アプローチ、現象学的アプローチ、グランデッドセオリー・アプローチ、エスノグラフィ・アプローチ、事例研究とうに分けられるが、「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」2章～8章にある、6つのアプローチの骨格を見分け、同時にそれぞれの独自性について確認して行く。</p> <p>【参考文献】 Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」) 新潮社 佐藤郁哉 2002「フィールドワークの技法：問を育てる、仮説を鍛える」新曜社 尾見康博・伊藤哲司 2001「心理学におけるフィールド研究の現場」北大路書房 フォルスタイン, J.A. 2004 「アクティブ・インタビュー：相互行為としての社会調査」山田富秋他訳 せりか書房 マクレオッド, J. 2007 「物語としての心理療法：ナラティブ・セラピーの魅力」野村晴夫訳 誠信書房 Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry & Research Design</i>. London: Sage Publications. Feyerabend, P. 1990 <i>Against Method</i>. London: VERSO. Van Manen, M. 1990 <i>Researching lived experience: Human science for an action sensitive pedagogy</i>. Albany. State University of New York Press. Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>. Pittsburgh: Duquesne University Press.</p>	
8 . テーマ	エピソード記述法の実際
<p>【学習の目標】 教科書「自分と向き合う心理学 意志心理学入門」の4章1～6の個別事例によって、エピソード記述法の実際（ある現象の記述を示しつつ、解釈を与え、考察を展開すること）について学ぶ。エピソード記述法は、基本的には、「背景」「エピソードの本体」「考察」の3点が一体となっている。</p> <p>【参考文献】 「エピソード記述入門」、および「質的心理学講座第1巻 育ちと学びの生成」序章、1章、2章参照のこと。</p>	
9 . テーマ	一般的な5つのアプローチを再確認
<p>【学習の目標】 第7回に引き続き、質的研究法の5つのアプローチを再確認する。</p> <p>【参考文献】 無籐隆 2005「質的研究の三つのジレンマ『再詳述法』の提案による質的心理学の可能性」 質的心理学研究（第4号 58-64）新曜社 佐藤郁哉 2002「フィールドワークの技法：問を育てる、仮説を鍛える」新曜社 尾見康博・伊藤哲司 2001「心理学におけるフィールド研究の現場」北大路書房 フォルスタイン, J.A. 2004 「アクティブ・インタビュー：相互行為としての社会調査」山田富秋他訳 せりか書房 マクレオッド, J. 2007 「物語としての心理療法：ナラティブ・セラピーの魅力」野村晴夫訳 誠信書房 Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry & Research Design</i>. London: Sage Publications. Feyerabend, P. 1990 <i>Against Method</i>. London: VERSO. Van Manen, M. 1990 <i>Researching lived experience: Human science for an action sensitive pedagogy</i>. Albany: State University of New York Press. Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>. Pittsburgh: Duquesne University Press.</p>	
10 . テーマ	再詳述法の実際
<p>【学習の目標】 教科書「自分と向き合う心理学 意志心理学入門」の序章、1～3章などによって、再詳述法の実際（ある現象—例えばフラストレーション現象—の全体を表現しているとは限らない概念—例えば「欲求不満」—の自明性を疑い再吟味する。より体験に近い言葉—例えば「意外感」—を用いた記述によって、現象の豊かさを伝えられるかどうかを確かめ、従来の見方の変革を目指すこと）について学ぶ。</p> <p>【参考文献】「質的研究の三つのジレンマ『再詳述法』の提案による質的心理学の可能性」、および「ワードマップ 質的心理学」1-1、6-1、7-3参照のこと。</p>	
11 . テーマ	一般的な5つのアプローチを再確認
<p>【学習の目標】 第9回に引き続き、質的研究法の5つのアプローチを再確認する。</p> <p>【参考文献】 鯨岡峻 2005 「エピソード記述入門」 東京大学出版会 百武 正嗣 2009 「気づきのセラピー」 春秋社 Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry & Research Design</i>. London: Sage Publications. Feyerabend, P. 1990 <i>Against Method</i>. London: VERSO. Van Manen, M. 1990 <i>Researching lived experience: Human science for an action sensitive pedagogy</i>. Albany: State University of New York Press. Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>. Pittsburgh: Duquesne University Press.</p>	

1 2 . テーマ	M-GTA の実際
<p>【学習の目標】 M-GTA について学ぶ。そして何らかの現象の観察、何らかの手記やドキュメンタリーの採取、またはインタビュー（個人、グループ）に基づいて、実際にエピソード記述法と再詳述法と M-GTA を行うこと。ある現象を記述し考察するに際しては、その現象の豊かさを伝えられているか、従来の見方の変革につながるかに留意する。院生各自がまとめて発表すること。</p> <p>【参考文献】 「ライブ講義、質的研究とは何か」ベーシック編・アドバンス編、2007、西條剛央 新曜社 「グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践」2003 木下康仁 弘文堂</p>	
1 3 . テーマ	一般的な5つのアプローチを再確認
<p>【学習の目標】 第11回に引き続き、質的研究法の5つのアプローチを再確認する。</p> <p>【参考文献】 無藤隆 2005 「質的研究の三つのジレンマ『再詳述法』の提案による質的心理学的可能性」 質的心理学研究（第4号 58-64）新曜社 Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry & Research Design</i>, London: Sage Publications. Feyerabend, P. 1990 <i>Against Method</i>. London: VERSO. Van Manen, M. 1990 <i>Researching lived experience: Human science for an action sensitive pedagogy</i>. Albany: State University of New York Press. Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>. Pittsburgh: Duquesne University Press.</p>	
1 4 . テーマ	質的研究の在り方：論文としてまとめるには
<p>【学習の目標】 「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」9章・10章によって、質的研究の独自性について確認し、陥りやすい問題点を認識し、倫理的問題点にも認識を深める。</p> <p>【参考文献】 無藤 隆 他 2004 「質的心理学」新潮社 Monk, G., Winslade, J., Crocket, K. & Epston, D. 1997 <i>Narrative Therapy in Practice : The Archaeology of Hope</i> (国重 宏一、バーナード 紫 訳 2008 「ナラティブアプローチの理論から実践まで：希望を掘り当てる考古学」) 北大路書房 Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry & Research Design</i>, London: Sage Publications. Feyerabend, P. 1990 <i>Against Method</i>. London: VERSO. Van Manen, M. 1990 <i>Researching lived experience: Human science for an action sensitive pedagogy</i>. Albany: State University of New York Press. Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>. Pittsburgh: Duquesne University Press.</p>	
1 5 . テーマ	まとめ（田島）
<p>【学習の目標】 ここまで学んだことを復習する。その他の質的研究方法も学ぶ。そして、自分の関心のある研究テーマに結びつけて、質的研究方法によって修士論文を書けるようにして行く。</p>	

1. 科目名 (単位数)	喪失の悲しみへの援助 (2 単位)				平成 23 年度
2. 授業担当教員	鈴木 康明				
3. 開講学期	秋期				
4. 授業科目の区分	F		5	必修・選択の区分	選択
6. 履修可能な専攻	P	課 程	M	履修学年 (履修条件)	1 年次以上
7. 授業形態	講義を中心とする。				
8. 講義概要	かけがえのない大切な人との別離ほど我々を苦悩させるものはない。ましてやそれが死によりもたらされ、永遠に会うことがかなわないとなった時、我々は悲しみ、嘆き、怒りなどの感情面はもちろんのこと、身体的な不調や思考の混乱、さらには行動上の問題など多様な事柄を抱える。そこで本講義では、喪失の悲しみのなかでも特に死別体験がもたらすものに焦点をあて、悲嘆カウンセリングによる援助の可能性と限界について考察したい。				
9. 学習目標	次の 2 点を目標とする。 1 悲嘆カウンセリングの理論的枠組みと方法、具体的な技術について、①遺族支援の必要性、②死別の悲しみの特質、③遺族の持つ両義的反応、④哀悼へのかかわりの点から理解する。 2 自死 (殺) 遺族と犯罪被害者遺族へのかかわりのあり方について理解する。				
10. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題は講義中に指示する。				
11. 教科書 参考書・教材	【教科書】 プリントを配布する。 【参考文献】 鈴木康明『グリーフ・カウンセリング』(山崎久美子編「臨床心理クライアント研究セミナー」) 至文堂 J.W.ウォーデン『グリーフカウンセリング』川島書店 若林一美『死別の悲しみを超えて』岩波書店				
12. 成績評価の方法	試験 60%、レポート 30%、出席等その他 10%				
13. 受講生へのメッセージ	主題に応じ演習を実施する。また受講者による研究発表を予定している。				
14. オフィスアワー	別途通知します。				
15. 授業展開及び授業内容					
講義日程		授業内容			
第 1 回	1 喪失について：死別と離別				
第 2 回	2 遺族 (1) 遺族について 1) survivor と bereaved family 2) 遺族へのかかわり				
第 3 回	(2) 遺族理解 1) 反応の個別性 2) 共通する反応				
第 4 回	3 死別の悲しみ (1) 特徴 1) 個人差 2) 主観性				
第 5 回	(2) グリーフ 1) 情緒 2) 身体反応 3) 認知 4) 行動 5) 事例から				
第 6 回	(3) モーニング (mourning 哀悼) 1) ボウルビィ 2) 鈴木 3) 事例から				
第 7 回	(4) ストレス反応 1) PTSD 2) 事例から				
第 8 回	4 グリーフケア (1) 自死 (殺) の遺族 1) 特徴 2) 遺児について				
第 9 回	3) かかわる際の留意点				
第 10 回	(2) 犯罪被害者の遺族 1) 特徴 2) かかわりの留意点				
第 11 回	(3) 喪の語り 1) 語る意味 2) 傾聴とは				
第 12 回	5 グリーフケアの実際 (1) 死別体験者のためのわちあいの会				
第 13 回	(2) 自死 (殺) 遺児のためのサポートグループ				
第 14 回	(3) 犯罪被害者の遺族				
第 15 回	6 まとめ				

1. 科目名 (単位数)	心理学総論特論 (2 単位)			平成 23 年度	
2. 授業担当教員	大澤 靖彦・松坂 秀雄・大島 朗生・田中 芳幸・加藤 宏一・齋藤 瞳・新井 雅人				
3. 開講学期	通年				
4. 授業科目の区分			5	必修・選択の区分	選択
6. 履修可能な専攻	P	課 程	M	履修学年 (履修条件)	2 年次以上
7. 授業形態 (通学教育)	講義、演習			履修形態 (通信教育)	S
8. 講義概要	臨床心理学及び臨床心理学的援助の背景にある広範な心理学領域について、基本的な知識を体系的に学ぶ。また、臨床心理学的援助に必要な法律と社会的制度および実践活動における倫理についての理解を深め、実践活動に必要な考え方と視点を習得する。				
9. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学における全般的な基礎的知識を習得する。 2. 臨床心理学における心理面接、心理査定、地域援助、そして研究活動についての基本的知識を学ぶ。 3. 臨床心理学的援助の実践活動に必要な法律および社会制度についての知識を習得する。 4. 心理臨床における実践と研究上の倫理について学ぶ。 				
10. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容について、あらかじめ教科書のページ指定を行うので、必ず予習を行い、該当する内容を理解した上で授業に臨むこと。 2. 基本的な事項を十分に習得する必要があるために、小テストを行う。 3. 学年の終わりに、単位認定試験を行う。 4. 出席を重視する。 				
11. 教科書 参考書・教材	【教科書】 臨床心理士資格試験問題集(1)平成 3 年~平成 18 年 [単行本] 誠信書房 新・臨床心理士になるために [平成 22 年版] 誠信書房 藤田祐美 臨床心理士資格試験必勝マニュアル 増訂版 新曜社 松原達哉編 2002 心理学概論 培風館 ※その他随時プリントを配布する。				
12. 成績評価の方法	期末試験 50% 日常の授業態度 (出席状況等) 50%				
13. 受講生へのメッセージ	知識を幅広く身につけることが目的である。深入りしすぎず、全体を概観するよう心がけること。また、専門用語も多いが、その用語があらわしていることを自分なりの言葉で説明できるようになることが望ましい。				
14. オフィスアワー	初回の授業において各担当教員のオフィスアワーを伝える。				
15 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】					
1 . テ ー マ	オリエンテーション・学習の進め方、心理学概論①知覚				
【学習の目標】 知覚分野に関する心理学の基本的知識を身につける。 【学習の内容】 心理学の基本的な知識として、知覚分野の主要な知識を確認し、人間がいかに外界の情報を処理しているか、その特徴ある情報処理の仕方を学ぶ。 【キーワード】 知覚、錯視、認知、ゲシュタルトなど 【学習の課題】 基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。					
2 . テ ー マ	心理学概論②学習・記憶				
【学習の目標】 学習・記憶分野に関する心理学の基本的知識を身につける。 【学習の内容】 心理学の基本的な知識として、学習、記憶分野の主要な知識を確認し、人間がいかに外界の情報を処理しているか、その特徴ある情報処理の仕方を学ぶ。そして、その特徴から、人の心ならではの働きというものを知り、将来臨床的な心理学を学ぶときに備える。 【キーワード】 条件付け、短期記憶、長期記憶、作動記憶など 【学習の課題】 基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。					
3 . テ ー マ	心理学概論③発達				
【学習の目標】 発達分野に関する心理学の基本的知識を身につける。 【学習の内容】 心理学の基本的な知識として、発達分野の主要な知識を確認する。生涯発達の観点から、人間の生まれてから死ぬまでの発達課題やそれに伴う問題を押さえておく。 【キーワード】 発達課題、乳幼児期、老年期、エリクソン、ピアジェなど 【学習の課題】 基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。					
4 . テ ー マ	心理学概論④欲求・感情				
【学習の目標】 欲求・感情分野に関する心理学の基本的知識を身につける。 【学習の内容】 心理学の基本的な知識として、欲求・感情分野の主要な知識を確認する。基本的な感情や欲求の特徴から、人の心ならではの働きというものを知り、将来臨床的な心理学を学ぶときに備える。 【キーワード】 親和欲求、達成欲求、フラストレーション、感情、ジェームズ・ランゲ仮説など 【学習の課題】 基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。					

5 . テーマ	心理学概論⑤自己・集団
<p>【学習の目標】自己・集団分野に関する心理学の基本的知識を身につける。</p> <p>【学習の内容】心理学の基本的な知識として、自己・集団分野の主要な知識を確認する。人間が自分や他者をどのようにとらえているかを初め、リーダーシップや同調行動などの集団社会における心理学的トピックをとりあげる。</p> <p>【キーワード】自己意識、態度、マインドコントロール、社会的促進、同調行動、リーダーシップなど</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p>	
6 . テーマ	心理学概論⑥対人認知
<p>【学習の目標】対人認知分野に関する心理学の基本的知識を身につける。</p> <p>【学習の内容】心理学の基本的な知識として、攻撃や援助といった対人関係もとりあげ、人の心ならではの働きというものを知り、将来臨床的な心理学を学ぶときに備える。</p> <p>【キーワード】援助、攻撃など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p>	
7 . テーマ	心理学研究法①要因計画法
<p>【学習の目標】科学としての実証的研究法を学習する。</p> <p>【学習の内容】心理学の研究法について、要因計画法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】実験計画、独立変数、従属変数、剰余変数の統制など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p> <p>【参考文献】高野陽太郎・岡隆編 2004 心理学研究法 有斐閣</p>	
8 . テーマ	心理学研究法②研究法
<p>【学習の目標】科学としての実証的研究法を学習する。</p> <p>【学習の内容】心理学の研究法について様々な心理学の実証法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】調査法、観察法、検査法、面接法など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p> <p>【参考文献】高野陽太郎・岡隆編 2004 心理学研究法 有斐閣</p>	
9 . テーマ	心理統計法①統計的検定
<p>【学習の目標】心理統計法における統計的検定に関する基本的知識を身につける。</p> <p>【学習の内容】臨床心理学の一要件として求められている統計法について学ぶ。特に、学生が各々の修士論文を作成するにあたり、必要となる統計の技術について、具体的に学ぶ。</p> <p>【キーワード】尺度水準、代表値、相関、テストの信頼性・妥当性、統計的検定など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p> <p>【参考文献】山田剛史・村井潤一郎 2004 よく分かる心理統計 ミネルヴァ書房</p>	
10 . テーマ	心理統計法②多変量解析
<p>【学習の目標】心理統計法における多変量解析に関する基本的知識を身につける。</p> <p>【学習の内容】それぞれの多変量解析の手法について、その特色を知り、それぞれどのようなことを調べるのに応用できるかを知る。</p> <p>【キーワード】重回帰分析、主成分分析、因子分析、正準相関分析、判別分析など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p> <p>【参考文献】湧井良幸・湧井貞美 2001 図解でわかる多変量解析 日本実業出版</p>	
11 . テーマ	臨床心理査定概説
<p>【学習の目標】臨床心理行為全般における臨床心理査定の意義や位置づけを学ぶ。</p> <p>【学習の内容】1. 主訴・問題歴・生育歴等の把握方法 2. 「見立て」を持って面接を進めることの意義 3. 面接・観察・調査の方法論</p> <p>【キーワード】臨床心理行為、臨床心理査定、査定面接、問題と個人史の把握</p> <p>【学習の課題】「ひと」を「<u>全人的に</u>理解しようとする」ということを理解する。主訴・問題歴・生育歴等の把握方法について考察する。面接者の態度や自分の面接者としての課題を知る。</p> <p>【参考文献】松原達哉他 2007 臨床心理学シリーズ③臨床心理アセスメント 培風館</p>	
12 . テーマ	様々な臨床心理査定技法①
<p>【学習の目標】面接・観察・調査による臨床心理査定技法による技法を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】調査・観察・面接に関する学習</p> <p>【キーワード】調査法、行動観察、面接査定、参加観察</p> <p>【学習の課題】臨床心理査定に当たって必要な技能である観察・面接・質問紙法の基礎知識の確認をする。</p> <p>【参考文献】上里一郎 2001 心理アセスメントハンドブック 西村書店</p>	

1 3 . テ ー マ	様々な臨床心理査定技法②
<p>【学習の目標】 質問紙法・作業検査法による技法を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 1. 質問紙法に関する学習 2. 作業検査法に関する学習</p> <p>【キーワード】 調査法、行動観察、面接査定、参加観察、質問紙法、作業検査法</p> <p>【学習の課題】 臨床心理学において代表的な質問紙法と作業検査法を概観する。</p> <p>【参考文献】 上里一郎 2001 心理アセスメントハンドブック 西村書店</p>	
1 4 . テ ー マ	投影法
<p>【学習の目標】 書かれた事柄や描かれた事柄、語られたイメージなどから「ひと」を理解する技法について、理論、技法、解釈を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 1. 投影法とは何かについて基礎を学ぶ。 2. 書かれた事柄による人間理解の技法を学ぶ。 3. 描かれた事柄による人間理解の技法を学ぶ。 4. 語られたイメージによる人間理解の技法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 投影法、客観性、イメージの言語化</p> <p>【学習の課題】 投影法の理論を学ぶ。検査結果の解釈について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 各検査のマニュアル</p>	
1 5 ～ 1 6 . テ ー マ	臨床心理学的援助の基本
<p>【学習の目標】 臨床心理学的援助の基本的態度について理解する。</p> <p>【学習の内容】 心理臨床の現場における自分のあり方や考え方を振り返る視点を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 フォーカシング、スーパーヴィジョン</p> <p>【学習の課題】 心理臨床活動ベースとなる自分のあり方を振り返る視点を持つ。</p> <p>【参考文献】 神田橋條治 1990 精神療法面接のコツ 岩崎学術出版</p>	
1 7 ～ 1 8 . テ ー マ	ケース・マネージメント
<p>【学習の目標】 ケース・マネージメントと治療契約、治療同盟について理解する。</p> <p>【学習の内容】 治療構造と行動化について理解を深める。</p> <p>【キーワード】 治療契約、治療同盟、病態水準</p> <p>【学習の課題】 1 ケース・マネージメントについて理解し、基本事項を習得する。</p> <p>【参考文献】 国分康孝 1979 カウンセリングの技法 誠信書房</p>	
1 9 ～ 2 0 . テ ー マ	面接過程
<p>【学習の目標】 臨床心理学的援助における面接過程に見られる様々な問題を理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 初回面接の見立て 2. 面接中期の展開と諸問題 3. 終結の見極め</p> <p>【キーワード】 見立て、抵抗、転移、逆転移、終結、リファー</p> <p>【学習の課題】 臨床心理面接の過程で起こる諸問題の対応について考察する。</p> <p>【参考文献】 国分康孝 1979 カウンセリングの技法 誠信書房</p>	
2 1 . テ ー マ	心理療法概論①
<p>【学習の目標】 心理療法について理解する。</p> <p>【学習の内容】 心理療法とはいかなる営みであるのかを概説する。心理療法各論として、心理療法を大きく4つの立場に分けて、それぞれの立場の考え方の特徴を概説する。その内の二つの立場として①精神分析的な立場、②行動主義的な立場に関して理解を深める。</p> <p>【キーワード】 心理療法、精神療法、カウンセリング、精神分析、行動主義</p> <p>【学習の課題】 心理療法という概念の地図を作る。</p> <p>【参考文献】 松原達哉 2004 臨床心理学 ナツメ社</p>	
2 2 . テ ー マ	心理療法概論②
<p>【学習の目標】 心理療法について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 心理療法とはいかなる営みであるのかを概説する。心理療法各論として、③人間中心的な立場、④システム論的な立場の2つに関して理解を深める。</p> <p>【キーワード】 来談者中心療法、システム論</p> <p>【学習の課題】 内外の様々な療法について理解する。</p> <p>【参考文献】 松原達哉 2004 臨床心理学 ナツメ社</p>	
2 3 . テ ー マ	心理療法各論①
<p>【学習の目標】 精神分析的な立場について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 精神分析的な立場の骨子を理解する。</p> <p>【キーワード】 精神分析理論、無意識</p> <p>【学習の課題】 無意識について考察を深める。</p> <p>【参考文献】 前田重治 1978 心理療法の進め方 創元社</p>	

24. テーマ	心理療法各論②
【学習の目標】	行動主義的な立場について理解を深める。
【学習の内容】	行動主義的な立場の骨子を理解する。
【キーワード】	学習理論、行動
【学習の課題】	行動療法と認知行動療法の違いについて考察する。
【参考文献】	山上敏子 1997 行動療法2 岩崎学術出版
25. テーマ	心理療法各論③
【学習の目標】	人間中心主義的な立場について理解を深める。
【学習の内容】	人間中心主義的な立場の骨子を理解する。
【キーワード】	現象学、パーソン・センタード、自己一致
【学習の課題】	理論を理解するとともに傾聴について理解を深める。
【参考文献】	佐治守夫・飯長喜一郎編 1983 クライアント中心療法 有斐閣新書
26. テーマ	心理療法各論④
【学習の目標】	システム論的な立場について理解を深める。
【学習の内容】	システム論的な立場の骨子を理解する。
【キーワード】	システム論、家族療法
【学習の課題】	具体的な問題解決を目指した治療的介入について学ぶ。
【参考文献】	遊佐一郎 1984 家族療法入門 星和書店
27～28. テーマ	(講義・演習) 地域援助
【学習の目標】	臨床心理士の仕事の4領域の一つである地域援助について理解する。
【学習の内容】	1. コミュニティにおける臨床心理士の仕事 2. 学校や産業領域での臨床心理士の仕事 3. 危機介入と PTSD 4. 社会問題への支援 (子育て、ニート、高齢者、自殺等)
【キーワード】	コミュニティ、緊急支援、PTSD
【学習の課題】	1. コミュニティの中での臨床心理士の活動について理解する。 2. 昨今の社会問題に対する支援について理解する。
29～30. テーマ	(講義・演習) : 法律・倫理
【学習の目標】	法律の改正を中心に臨床心理士が理解すべき法律、および職業人としての倫理についての理解を深める。
【学習の内容】	1. 精神保健福祉法 2. 少年法 (少年院法) 3. 児童福祉法・児童虐待防止法・DV 防止法 4. 臨床心理士の倫理 5. 守秘義務とインフォームド・コンセント
【キーワード】	法律の改正、倫理問題
【学習の課題】	1. 法律の改正について理解する。 2. 臨床心理士の倫理について理解する。